

「玉つくり物語」影印・略解題

〈一至十〉

牧 野 和 夫

こゝに影印に付す一点は、本学図書館常盤松文庫蔵「玉つくり物語」六十冊である。本書は、室町時代物語風の体裁を保ち、一見すると中世成立の貴重な文学作品とも考えられようが、その内容・伝本流伝の点等から、近世の「偽り造れるもの」との推測も十分になりたちえる、誠に厄介な書物である。南北朝成立とも、室町成立とも謳われるが、確定的な微證をみない。近時、古典文庫収録予定書目（永井義憲氏の編にかゝる）に著録をみ、又、石川透氏の手にかかる翻刻（『斯道文庫論集』第二十五・二十六集、平成2・3刊）も公刊された。漸くにして本格的な論究が始まろうとしている。室町期成立の『塵荊鈔』などからむ歌も存し、改めて検討すべき一書であることは誤りない。以て簡略な書誌的事項を記して、影印公刊するゆえんである。

実践女子大学図書館（常盤松文庫）

玉つくり物語

七四三七六

〔近世〕写

大十冊

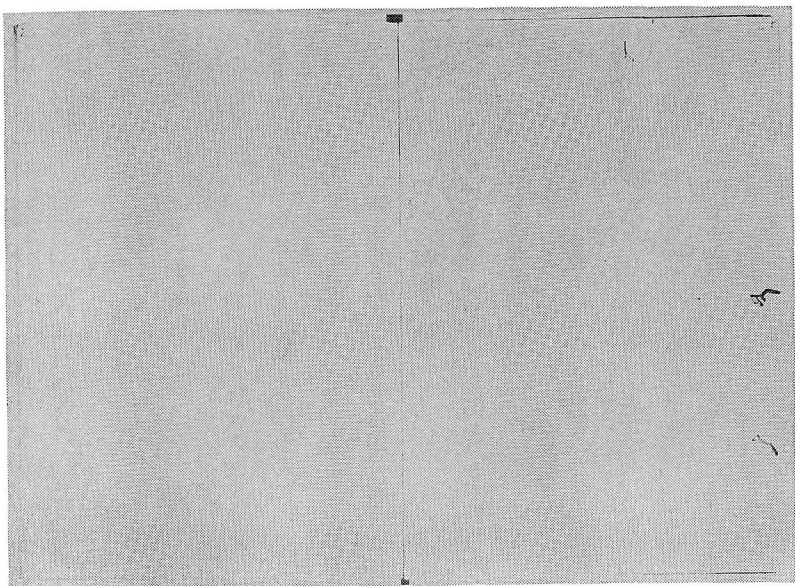
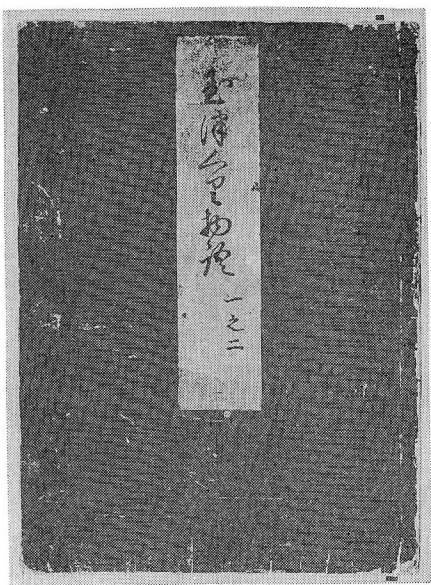
鶯色地布目表紙（二五・二×一八・三糎）、中央に白茶地（短冊型）紙を貼り「玉つくり物語<sup>一・二・三（二十一・二十二・二十三）</sup>」と墨書（本文とは別筆か）。第一冊表紙右に「古き物語の名をかりて後人の／偽り造れるものにていとくつたなき／ものなり」と打付に後筆墨書がある。見返し、遊紙前後各一丁本文共紙、烏ノ子。目録は第一冊に総目（一丁半）のみ、「玉つくり物語／そとほり姫／李夫人／きつね／こたまの繪／…」：／…／姐已」 第十六脱篇／夢あはせ／関てら／…／一むらす／計二十二篇。丁を改めて、本文「そとをり姫／いまのおほんときを、いづれのころと、／たどりてか、こゝらまします、おほや／けことを、しかり、しからずと、うたがひ、／…／…」と。無辺無界、字面高さ約十七・〇糎、每半葉八行々十五字内外、朱の断句、濁点を施こす。全体は字様は若干古めかしく見えるが、おそらく転写に際して、粗く模した故か、と思われる。近世も中期以降の書写か。「りふ人」の「清涼殿のひさし<sup>本のまゝ</sup>」の「大ゆかまで…」、「こたまの繪<sup>四</sup>」の「身のまかりたる女の…」の如く、「本のまゝ」と本文同筆で注記あり。「世<sup>いまの</sup>の人の中にも」（「りふ人ニ」）、「あめ。した」<sup>が</sup>（「ならひに<sup>仁王会</sup>」）等、補入符を以て、右傍に本文同筆墨で補う。

又、朱にて補う場合もある、「うち<sup>かづきみのかさにあて月の夜はあふぎうち</sup>」等、補入符を以て、右傍に本文同筆墨で補う。補入符も朱）など。朱・墨に何らかの区別が存したか、どうかは明らかではない。

所々、写誤を削り本文同筆にて訂す、たとえば「ゆへへのくも」（△私施）を「ゆふへのくも」と訂す。

第一から第十迄に限定するというならば、第七「なそへなきはな」を除く実践本の朱墨両様の補入箇所は全て、大東急文庫蔵本に存する。







うさぎの娘

いほのわがんとていほれのあはれ  
そとてうさぎの娘をまはるや  
あこがれあつたうさぎの娘  
いほのわがんとていほれのあはれ  
あこがれあつたうさぎの娘  
いほのわがんとていほれのあはれ  
あこがれあつたうさぎの娘

あつたうさぎの娘をまはるや  
あこがれあつたうさぎの娘  
いほのわがんとていほれのあはれ  
あこがれあつたうさぎの娘  
いほのわがんとていほれのあはれ  
あこがれあつたうさぎの娘

あつたうさぎの娘をまはるや  
あこがれあつたうさぎの娘  
いほのわがんとていほれのあはれ  
あこがれあつたうさぎの娘  
いほのわがんとていほれのあはれ  
あこがれあつたうさぎの娘

ちやうどさういふはかりこゝち  
 うちへ先きう先きういひや  
 のちへはさうさ夜、さうさ夜、さ  
 もたして、ゆゑに、あつたはた  
 ぬさうけふいふや、や、あつたは  
 けふさうや、さうさ、さうさ、さ  
 ありさうさ、さうさ、さうさ、さ  
 うちへ、さうさ、さうさ、さうさ、さ

うちへ、さうさ、さうさ、さうさ、さ  
 うちへ、さうさ、さうさ、さうさ、さ  
 うちへ、さうさ、さうさ、さうさ、さ  
 うちへ、さうさ、さうさ、さうさ、さ

さうさ、さうさ、さうさ、さうさ、さ  
 る、さうさ、さうさ、さうさ、さ  
 に、さうさ、さうさ、さうさ、さ  
 ち、さうさ、さうさ、さうさ、さ  
 さうさ、さうさ、さうさ、さうさ、さ  
 ち、さうさ、さうさ、さうさ、さ  
 さうさ、さうさ、さうさ、さうさ、さ  
 さうさ、さうさ、さうさ、さうさ、さ

さうさ、さうさ、さうさ、さうさ、さ  
 さうさ、さうさ、さうさ、さうさ、さ  
 さうさ、さうさ、さうさ、さうさ、さ  
 さうさ、さうさ、さうさ、さうさ、さ



かむれがまきこいしくめふさるゝ  
わさぬきりこ先をひくこふあ  
くくと見きをわくくとかふふあ  
かうやうなもてこにあうとむつ  
にこりいほううをこたふまの  
人あうこゆやれうにいふとそれ  
ねんなんすすおとふたふあふ  
ふふふふふふふふふふふふふ

のわはいそれやうめふふふふふ  
のこふのふとゆねにゆくとこ  
りう月のむうりあふふふふふ  
たらいふふふふふふふふふふ  
あたりここのあふふふふふふ  
らふふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふふ

かん人ふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふふ

けふまたあに、青い花が、まうと咲きなり  
 此のちの如く、うらなひは非なり、とて言  
 ひ、あはれうその花のものゝ海があらそ  
 かり、めもののはねの根を、おれ、こ  
 うすむし、例え、あのもく、こころにうれ  
 風さうり、海うる舟の本あり、舟の  
 おれ、こさこのねよ、もしかなう、だの  
 な、ひくらう、や、女の心を、おこやう

ちうして、如き如きに所をさへし、  
はつとよ。あやせられおこりるん  
前ばそれてくろりもさへどこの  
衆のつらふうめもするんが成か  
ろろにのみあひそめぬあえぬ  
るや、わくとあめもさほまりた  
そこそ、まいてなりぬあゆみされ  
そこも、あのをついにありとも、

今のそれらとせふんえに生海  
 草と木のこゝとせとていれん  
 油をたてまつる。

せうり 俗科をいふは 俗見  
根のみを 残留せる 物有れうな  
み 治るる 物に けりて せうり あり  
ま 治るる けりて せうり あり  
けりて せうり あり  
けりて せうり あり

そのおまわりを男ふゆいしうしりし  
るあはれこころをばやくする事  
るる然なるいするげゆこゝ女た  
いあらうしうするを男とて死  
とされぬこの代ふくするを男女  
の世はよきむねとて非も、そ  
うあひおうすてむちうとあ  
る非代のむし、女といふは

うみ給ねるさへきこいこのあし  
らあやにけいさたきやとてよ  
けいこにへきん入替りしころぞ  
やまゝあや男女の中れこ成せ  
らふりやとむねけつしにうあめ  
はびあひさふりあしたむあ  
れこころりやあめいふたれ  
あやあねけりささるまふまふ

あて井のふんあしけよめね  
なりとてさばなすもあはれは  
ふいとおもひにいやあめりき  
里よりくあめあはれねふふ  
あまにあわけりこのこもあ  
やうたてふこころあはれこ  
あまれあふたむきあめり  
あやあてまゝあや人へきこ

わがあやりされ人まふあや  
き人へささるふい人あやけ  
あはれもこのあはれささるあ  
あやあめりけのあはれささるあ  
あやあめりけのあはれささるあ  
あやあめりけのあはれささるあ  
あやあめりけのあはれささるあ  
あやあめりけのあはれささるあ

あやあめりけのあはれささるあ  
あやあめりけのあはれささるあ  
あやあめりけのあはれささるあ  
あやあめりけのあはれささるあ  
あやあめりけのあはれささるあ  
あやあめりけのあはれささるあ  
あやあめりけのあはれささるあ  
あやあめりけのあはれささるあ





てや、おのふらむ、うけう、おひきえ  
させやう、人へおれ、う、おれ、う  
う、や、おれ、う、おれ、う、おれ、う  
よ、人のとう、おれ、う、おれ、う、おれ、う  
このあ、い、い、う、おれ、う、おれ、う  
う、あ、おれ、う、おれ、う、おれ、う  
おれ、う、おれ、う、おれ、う、おれ、う  
おれ、う、おれ、う、おれ、う、おれ、う

ち、おれ、う、おれ、う、おれ、う、おれ、う  
おれ、う、おれ、う、おれ、う、おれ、う  
おれ、う、おれ、う、おれ、う、おれ、う  
おれ、う、おれ、う、おれ、う、おれ、う  
おれ、う、おれ、う、おれ、う、おれ、う  
おれ、う、おれ、う、おれ、う、おれ、う  
おれ、う、おれ、う、おれ、う、おれ、う  
おれ、う、おれ、う、おれ、う、おれ、う

そのお、い、う、おれ、う、おれ、う、おれ、う  
おれ、う、おれ、う、おれ、う、おれ、う  
て、何、の、う、おれ、う、おれ、う、おれ、う  
人のせ、おれ、う、おれ、う、おれ、う、おれ、う  
おれ、う、おれ、う、おれ、う、おれ、う  
おれ、う、おれ、う、おれ、う、おれ、う  
おれ、う、おれ、う、おれ、う、おれ、う  
おれ、う、おれ、う、おれ、う、おれ、う

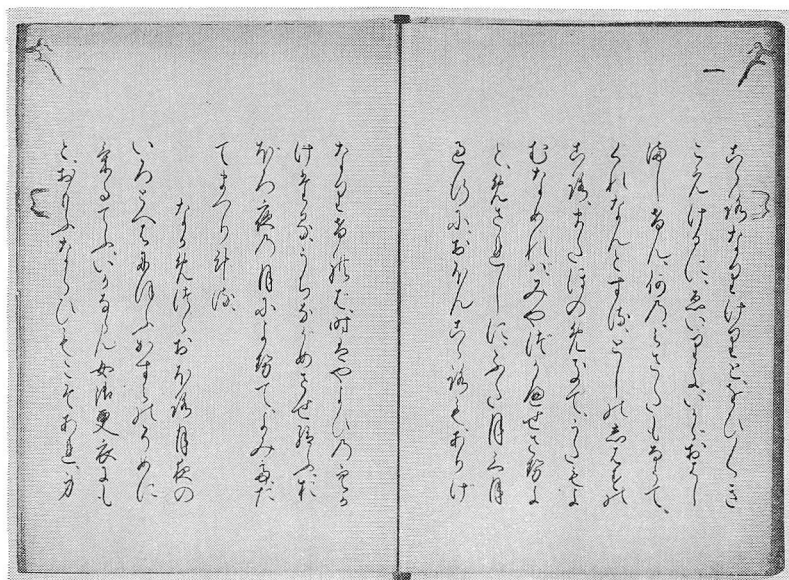
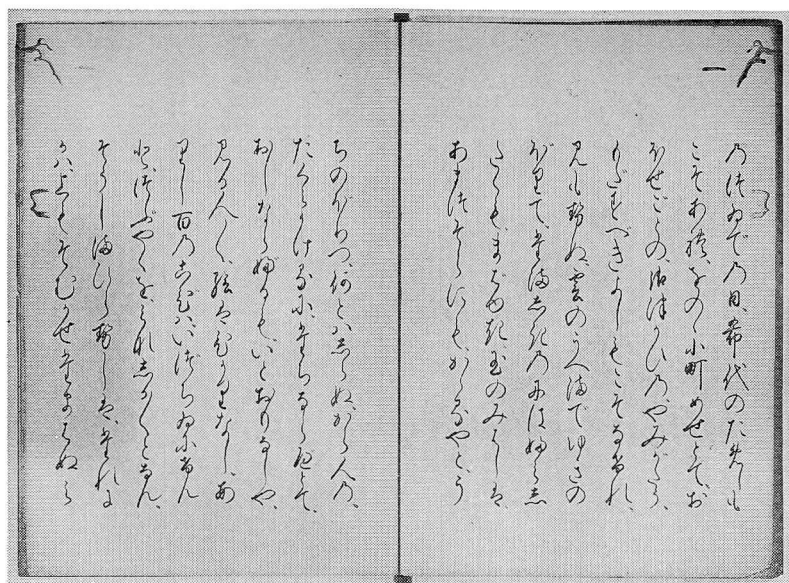
て、う、おれ、う、おれ、う、おれ、う、おれ、う  
おれ、う、おれ、う、おれ、う、おれ、う  
おれ、う、おれ、う、おれ、う、おれ、う  
おれ、う、おれ、う、おれ、う、おれ、う  
おれ、う、おれ、う、おれ、う、おれ、う  
おれ、う、おれ、う、おれ、う、おれ、う  
おれ、う、おれ、う、おれ、う、おれ、う  
おれ、う、おれ、う、おれ、う、おれ、う



せーその強なりけんとおん法  
 涼殿小の夢さううナをさせ給ふ  
 ておわらんとお勤御しうお然  
 バ法涼殿のおこし　おのこ  
 れたけうそておおとて  
 精々おとけりあのおねえ  
 れあふたがお人びうそ  
 のおしおわねえやなと人々

とうすにきてうたてちりや  
らんやちん辰井のちん井あ  
てちんやちんやちんやちん  
我つふふふふふふふふ  
ふふのふふふふふふふふ  
あふふふふふふふふふ  
せふふふふふふふふふ  
たてあふふふふふふふふ

とくなく、まゝなうなるものを  
わたりてのむるものば、  
けふとあさといふなり。中  
を夜中にぬきぬくものも、  
まじり合ひては、目にあは  
せさせしめりあるといふ事、  
あまたにあらせて、いづれ  
てやいおうまいけるか。





とふくくいぬふ君城あり  
のめきりもあまう死せれちて  
それこそ留給いよ世のふあれ  
けりあしうせきもうつあや  
わんぬと

くもろとにぞりふかひん  
むろとちちて月夜をあらと  
とけりかすみふりよあけ

くふれあやと時あやふはゆせ  
わもれきもあまう死せれちて  
めきりもあまう死せれちて  
それこそ留給いよ世のふあれ  
けりあしうせきもうつあや  
わんぬと

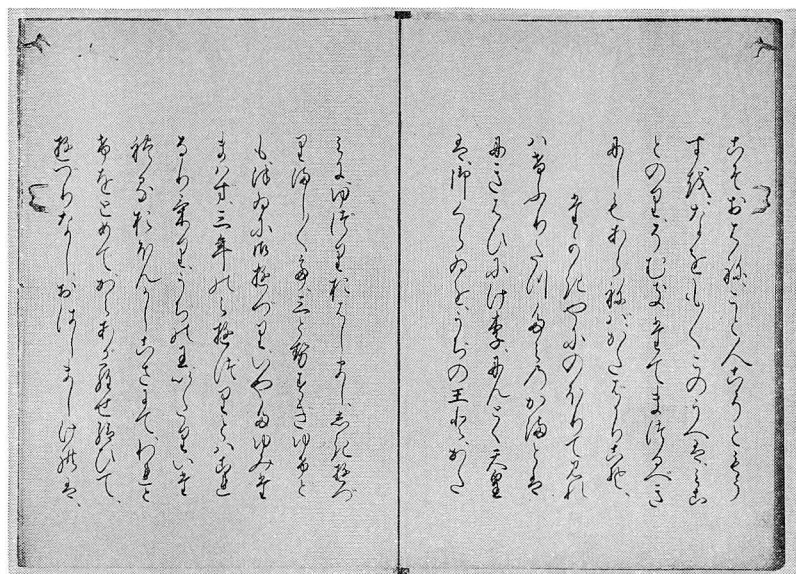
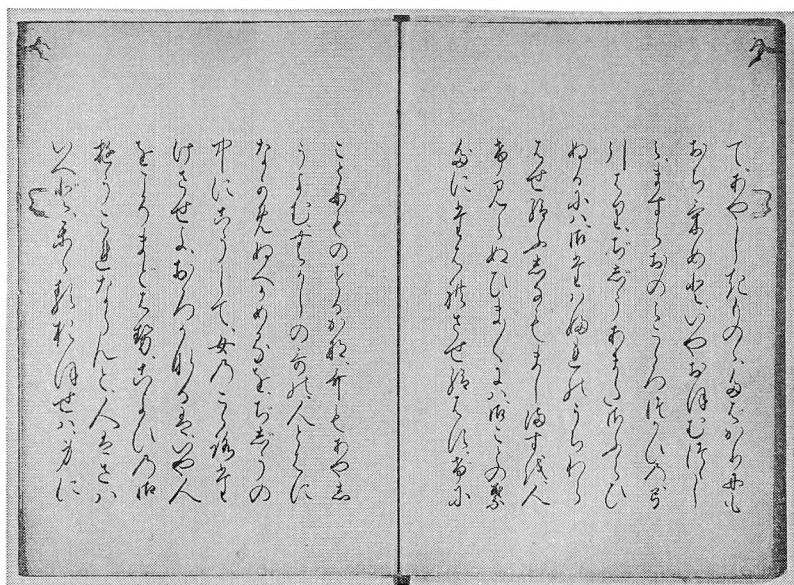
えのきりいそたふあや  
けたてまのきりあや

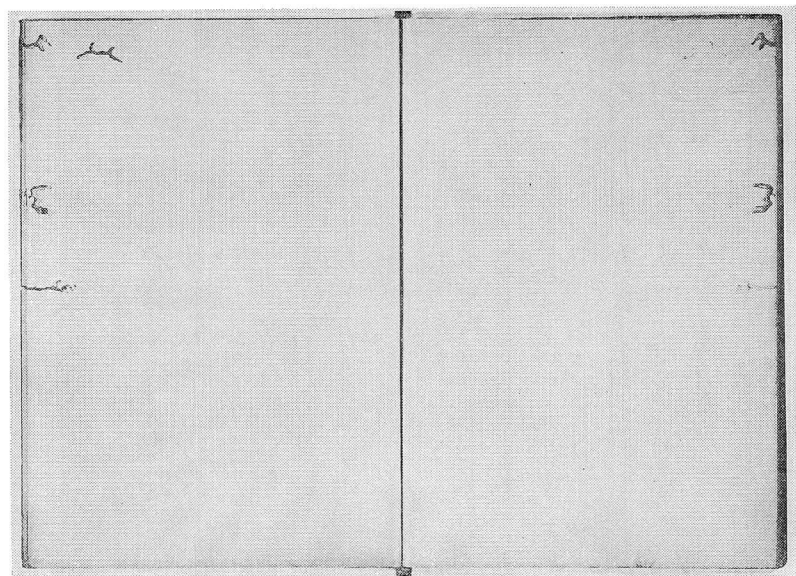
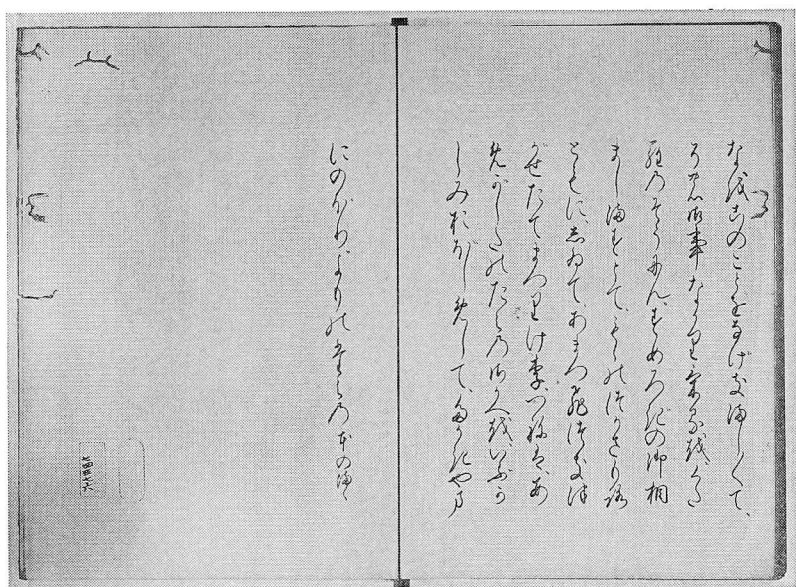
なうたわふ人あまの城  
おりとあやあけりよあけ  
お月の飛又

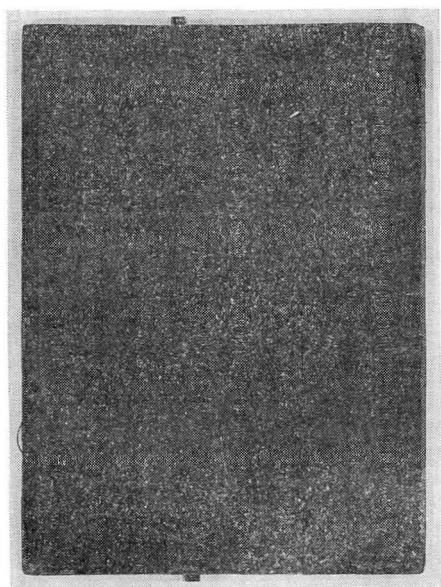
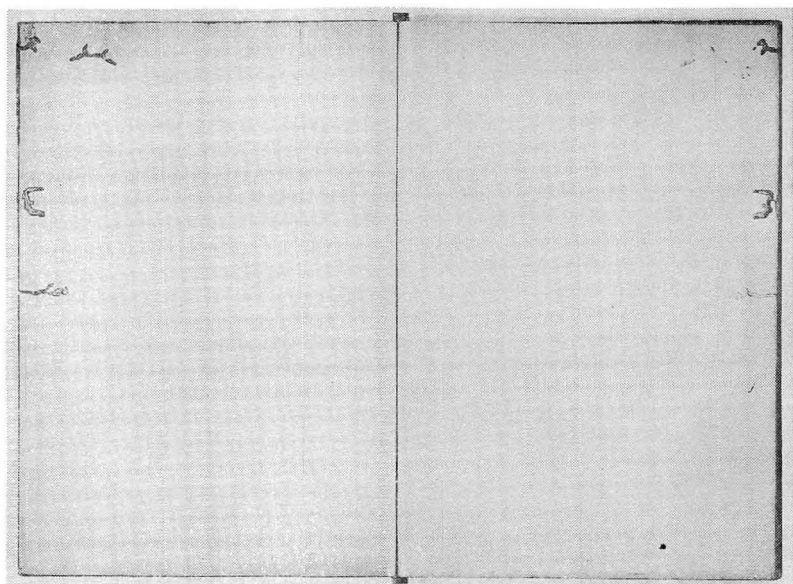
えのきりいそたふあや  
けたてまのきりあや  
なうたわふ人あまの城  
おりとあやあけりよあけ  
お月の飛又

きりいそたふあや  
けたてまのきりあや  
なうたわふ人あまの城  
おりとあやあけりよあけ  
お月の飛又

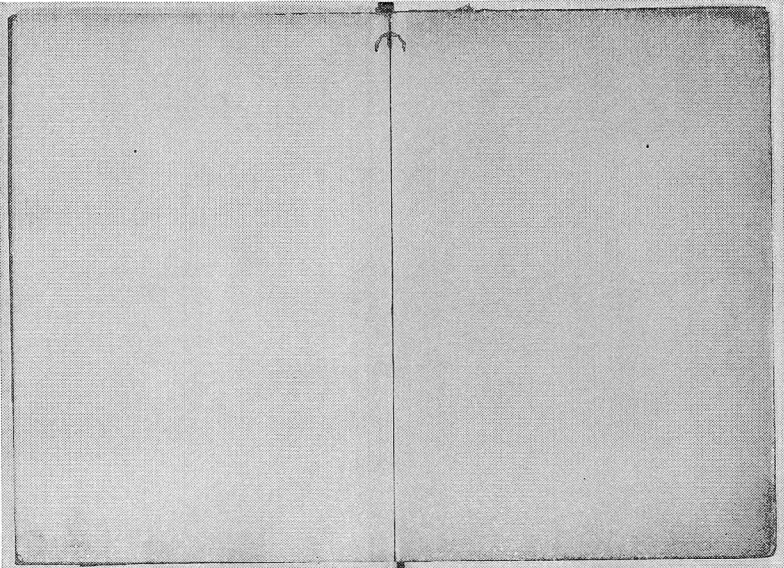
えのきりいそたふあや  
けたてまのきりあや  
なうたわふ人あまの城  
おりとあやあけりよあけ  
お月の飛又





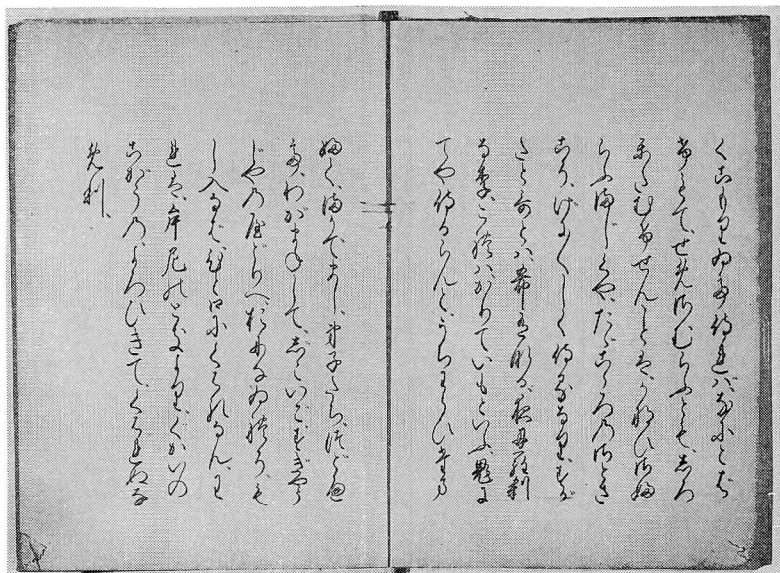
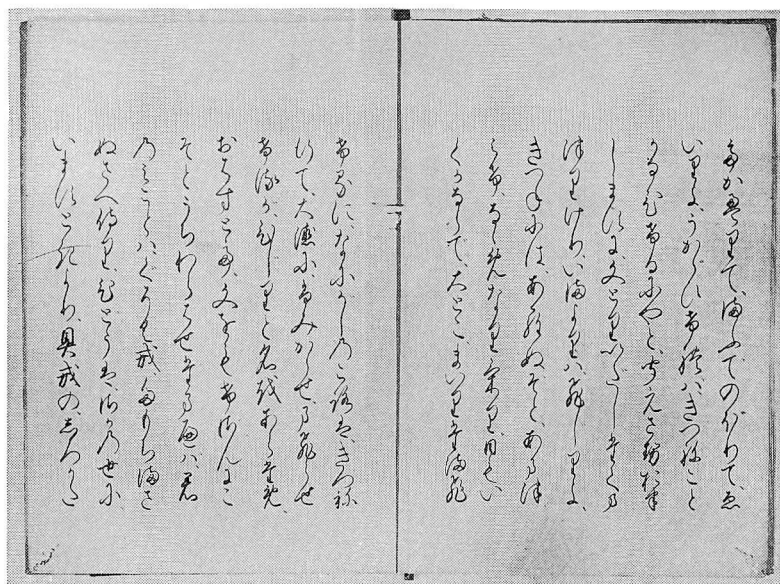










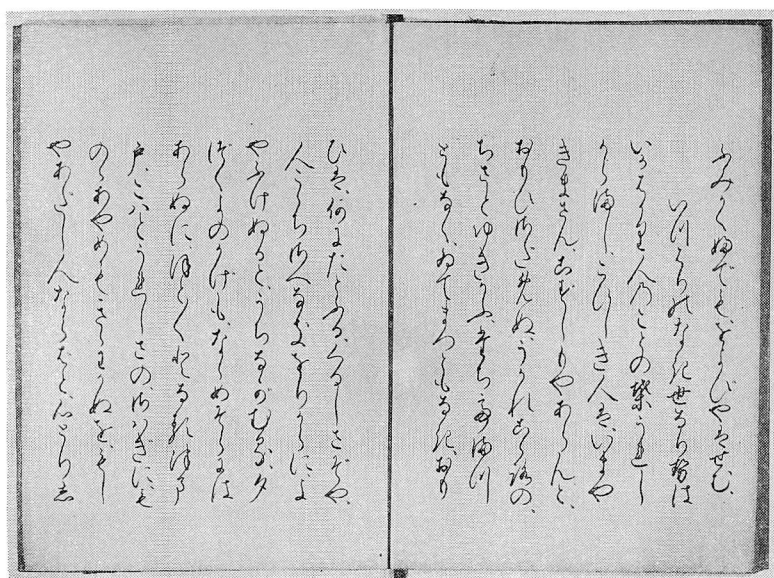
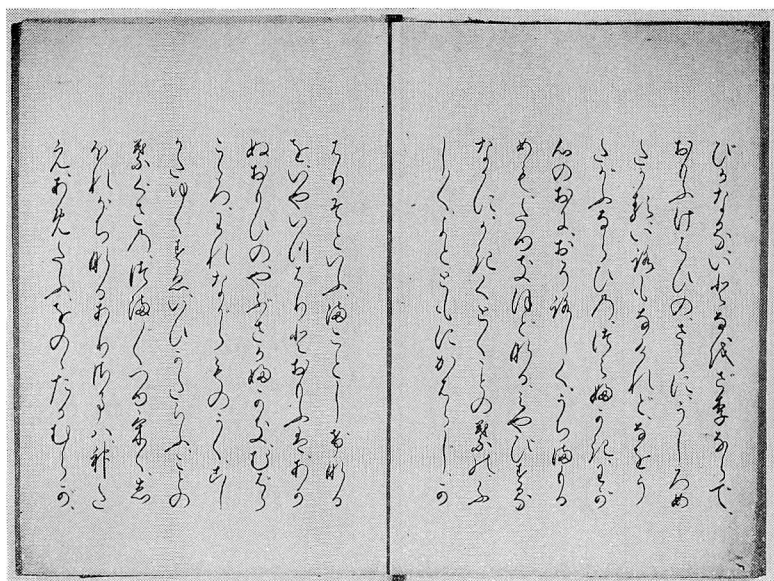


九条乃にの二条れわの中  
 にをの小町てふとけとあり  
 あいらくくきとめことと錢  
 くれくふくぬりそちうけ  
 然うきりちけふとれに九条  
 の東のこつにひりまはすそ  
 うらなとそりきあやけ人

まてばふと錢まらひいふせ  
 じとて、あの小町をたけてぞと  
 ことなわ海へわらとてとぬ  
 あうふくくかきそ、あう  
 てきけてよく、おとせあり  
 ちあふと、このいぢり、繪をいあて  
 いくいくとて、あうもあふと  
 然へぬあうくく、おれあ

らくくぬいける、例の法師の  
 たいむれぬりひの、さう、あふ  
 おりもすなわ、われた、あふ  
 然は代も、さう、あふ、あふ  
 きとせ、あふ、あふ、あふ  
 あふ、あふ、あふ、あふ  
 あふ、あふ、あふ、あふ  
 あふ、あふ、あふ、あふ





わふふふふいの月夜、りちあふん  
とまらふふふふふふふふふふ  
ふたのり目れてふふふふふ  
くゆめにはらふふふふふふふ  
なるふふふふのふふふふふふ  
るふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふ  
の月うふふふふふふふふふ

君はすなわち福也といふ

— 232 —

ふれなうしきすう。こゝろしく所  
ぶより、だからて衆人の乳を先と、  
あせ先ぬるあさう。まへはよあ  
ら道までくわいもゆか我々  
あのころころ然りわうしてら  
う。ねこいうちげうほこ  
おろけ。あつたう乳をいつこ  
うにあう。うめえすきこころ

かなゆねきむねをせうな  
 物なりわれいふせのわらんわ  
 らをぬりこもる成むじべん  
 るくまふとふゆめよしえは  
 一人まこもこたしぬらとちぬを  
 うらんてぬねさふ

いそきてこひふれむ  
ふゆのうらふらふ城へ

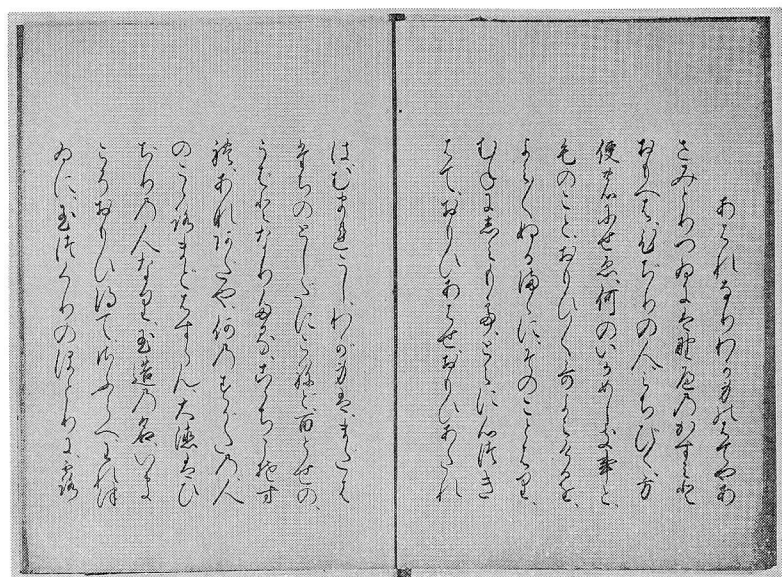
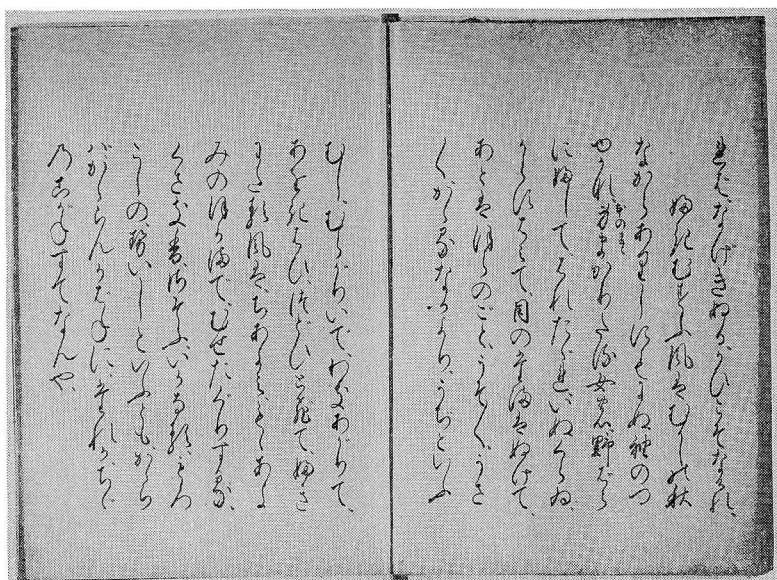
て物なうへふふなかり  
いあむて、えけぬ海の上れ  
あふきの象、おにくるも  
ふとそよぐたひあふかう  
死せ中なるひわくくじり  
のほしく、あらたにあらう  
むちきとらりて、まゝ成りう  
いと成りうとて、さつげん

陽のたるもれ希なりふくもるを  
にうたふれそれあふたてひ  
くらきあはれのさへうふもるを  
ちやとてうにうたふる。

手ぬぐいをさきまのうしろ  
 はくしを足がきなすの靴  
 ありありとあふれおひいてこ  
 の表ふくしをきくおむすい





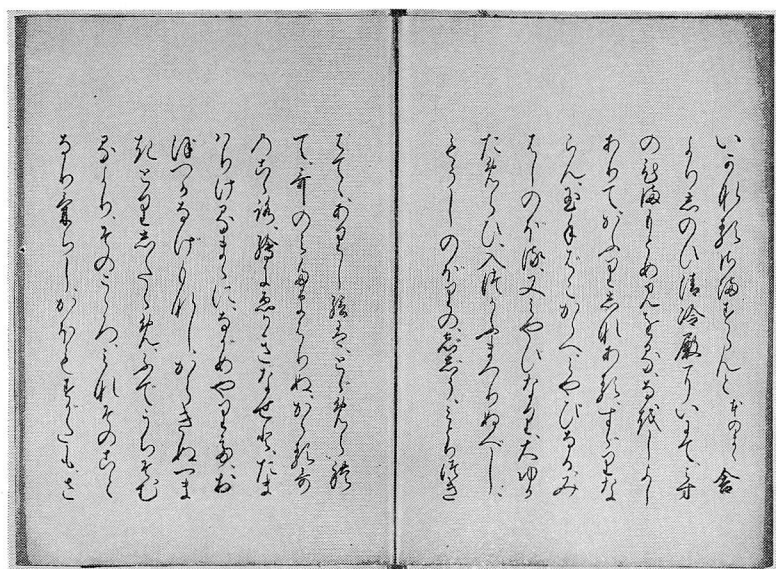
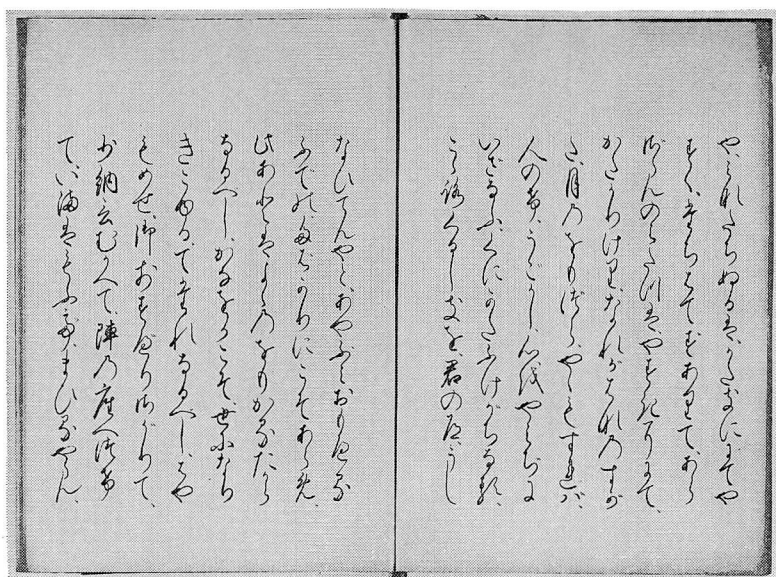


かりらんひきかたあ先のく  
さねはゆのもやあらんをのくめ  
れさう先をかくけとたかぬあ  
お幸うう人なまはらひふ  
さうひらんたりたすせて海  
もて海まふもぬりてた  
てすろを城くやうあ海はうあ  
おんう海てかたれあやうき

あうひうらんひううふあ  
ものりあううとかんあせ  
あううあ海をううかたぬり  
いでまふ海つりけしたあやう  
たうかたぬてのたううの今う  
さうひかきりにあうすまいの  
たうこれとにうたあう先こふ  
あふあれかひいあをうう海

やあかりらんあ海と見ああひ  
あれとてあめれうう海く先い海  
ううあ海ううあやうあ先を  
うのううあうあすバをりあう  
ううあ海うう海り人あうう  
うてあうううたあうあう  
あうああううあううあう  
あ海りうううあれうううあ

にむくううあ海あうひくう  
ああううううううあう  
うう王ううあうあ勝まんあ人  
ううああうあうあうあう  
あううううううううう  
あううううううううあう  
あううううううううあう  
あううううううううあう  
あううううううううあう



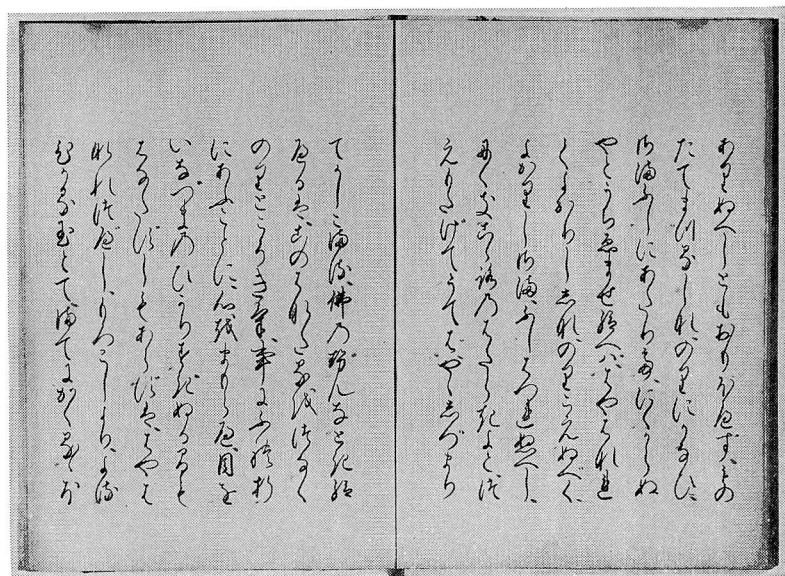
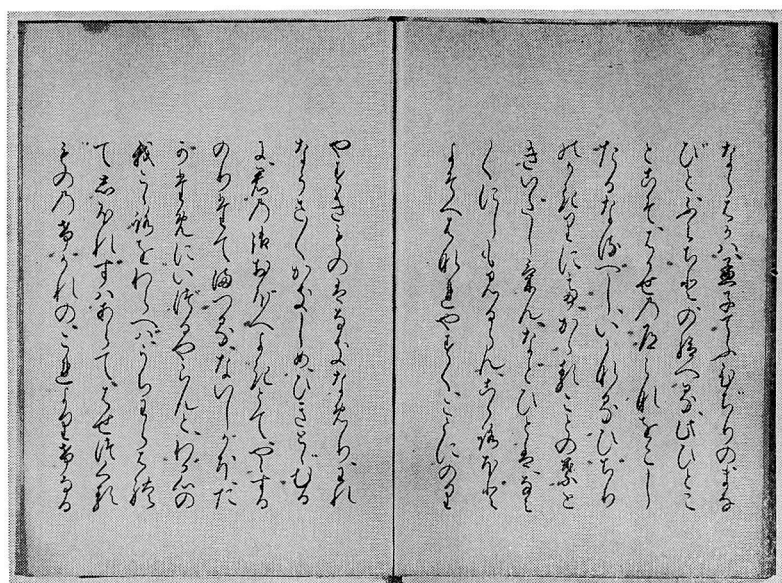


いしゝゆるさ海ふさけいけきぬ  
あまばあさうたふありとつこ  
りに針の糸をひあもて妙な  
糸にふねきく人くいふま  
さうさうゆれのものささう  
き強くゆに億人のあめとさ  
うりてそのまじあゆまかな  
うさうさうさうさうさうの

にのちをけたり、ふみふきとて  
何ふやとあてたれやとて  
ふみふきにのちをけとてとて  
ささささささささささ  
時々人とうこたふされども  
ふみふき空海とて、ふみふき  
ふみふき空海とて、ふみふき  
ふみふき空海とて、ふみふき







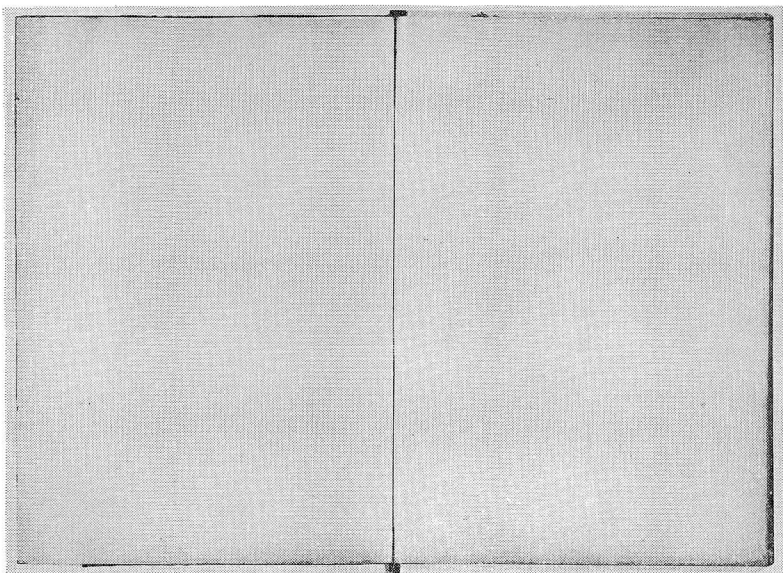
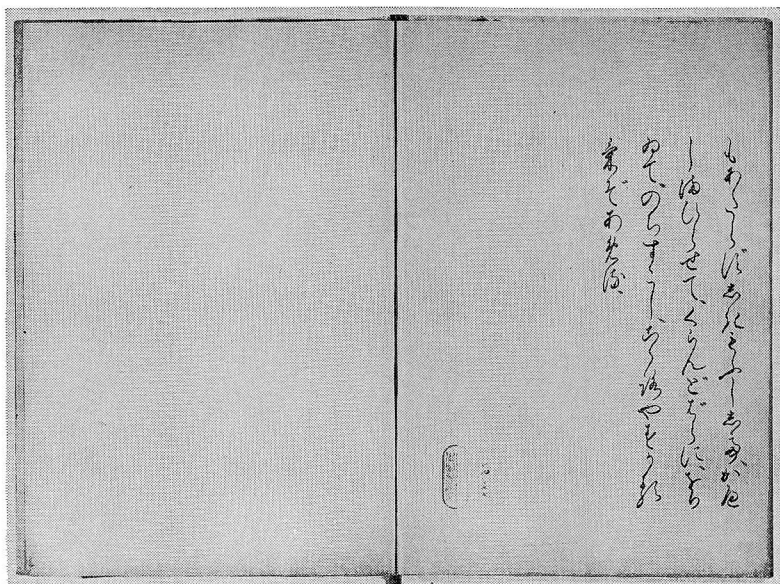


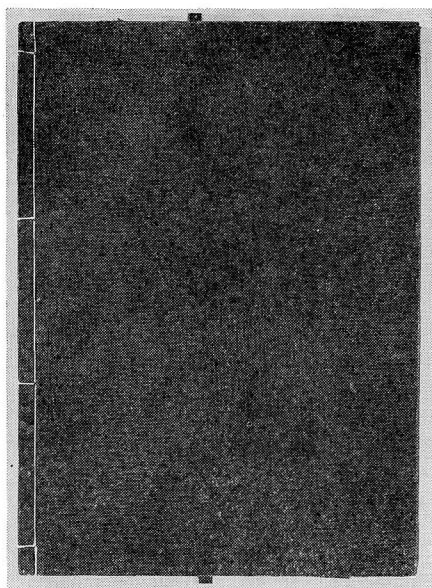
あうそーれきそふんそー  
ゆまにわわー何となくうらん  
はれがわわれきそふんそふ  
幫んそふそふそふわわそこ  
とわわわわわわわわわわわわ  
さうわわわわわわわわわわわ  
さうわわわわわわわわわわわ  
わわわわわわわわわわわわわわ  
わわわわわわわわわわわわわわ

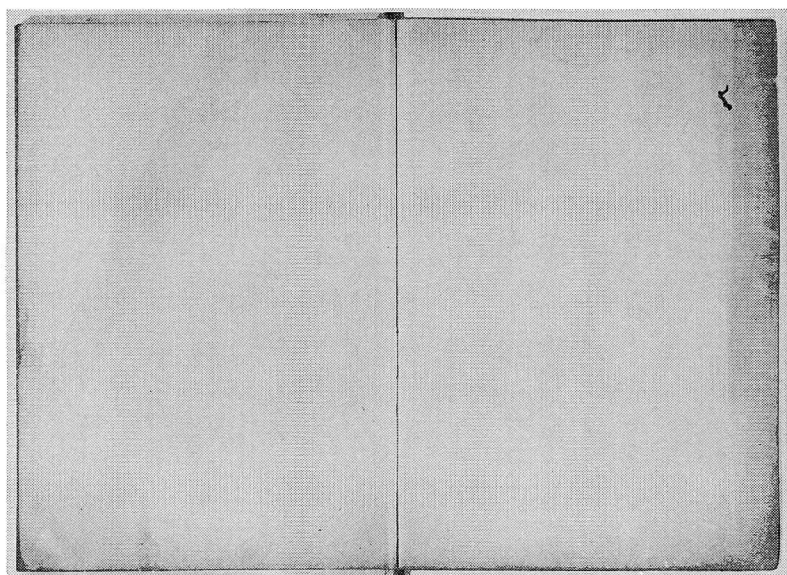
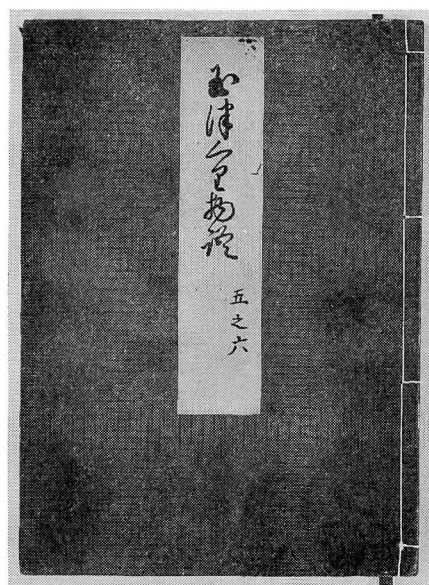
わわわわわわわわわわわわわわ  
わわわわわわわわわわわわわわ  
わわわわわわわわわわわわわわ  
わわわわわわわわわわわわわわ  
わわわわわわわわわわわわわわ  
わわわわわわわわわわわわわわ  
わわわわわわわわわわわわわわ  
わわわわわわわわわわわわわわ  
わわわわわわわわわわわわわわ  
わわわわわわわわわわわわわわ

わわわわわわわわわわわわわわ  
わわわわわわわわわわわわわわ  
わわわわわわわわわわわわわわ  
わわわわわわわわわわわわわわ  
わわわわわわわわわわわわわわ  
わわわわわわわわわわわわわわ  
わわわわわわわわわわわわわわ  
わわわわわわわわわわわわわわ  
わわわわわわわわわわわわわわ  
わわわわわわわわわわわわわわ

わわわわわわわわわわわわわわ  
わわわわわわわわわわわわわわ  
わわわわわわわわわわわわわわ  
わわわわわわわわわわわわわわ  
わわわわわわわわわわわわわわ  
わわわわわわわわわわわわわわ  
わわわわわわわわわわわわわわ  
わわわわわわわわわわわわわわ  
わわわわわわわわわわわわわわ  
わわわわわわわわわわわわわわ







きけふ像世たふ  
 このふり夢れあひてあふめさる  
 花ととのふ城見ふふと海と  
 おとろく、おとろくあふてあふ  
 ありけし人ふう海れてかふいふ  
 ありけし人ふう海れてかふいふ  
 のちけふあふてあふてあふて

（印）

いふふふふふふふふふふふふ  
 ふふふふふふふふふふふふ  
 ふふふふふふふふふふふふ  
 ふふふふふふふふふふふふ  
 ふふふふふふふふふふふふ  
 ふふふふふふふふふふふふ  
 ふふふふふふふふふふふふ  
 ふふふふふふふふふふふふ

ありふふふふふふふふふふふ  
 ふふふふふふふふふふふふ  
 ふふふふふふふふふふふふ  
 ふふふふふふふふふふふふ  
 ふふふふふふふふふふふふ  
 ふふふふふふふふふふふふ  
 ふふふふふふふふふふふふ  
 ふふふふふふふふふふふふ



おひねふとよの中れのけねうが  
しけねるふた何事とてうねと  
いふねへやうとんらんへんまね  
ととんあねねふとんらんうね  
まへにねへねへねへねへ  
月いとおくあんとあうあう  
うえにねへねへねへねへ  
とけねとんねのあふね

あふねねたふねねねねね  
月いとおくあんとあうあう  
うえにねへねへねへねへ  
とけねとんねのあふね  
まへにねへねへねへねへ  
月いとおくあんとあうあう  
うえにねへねへねへねへ  
とけねとんねのあふね

とねねねねねねねねねね  
やふねねねねねねねねね  
ねねねねねねねねねね  
ねねねねねねねねねね  
ねねねねねねねねねね  
ねねねねねねねねねね  
ねねねねねねねねねね  
ねねねねねねねねねね

とねねねねねねねねねね  
やふねねねねねねねねね  
ねねねねねねねねねね  
ねねねねねねねねねね  
ねねねねねねねねねね  
ねねねねねねねねねね  
ねねねねねねねねねね  
ねねねねねねねねねね

うれきいそふれ名紙きくしを  
 ありあきしきく。わさきききき  
 て、名紙ききききききききき  
 けあききききききききき  
 せんききききききききき  
 一、うれききききききききき  
 よしききききききききき

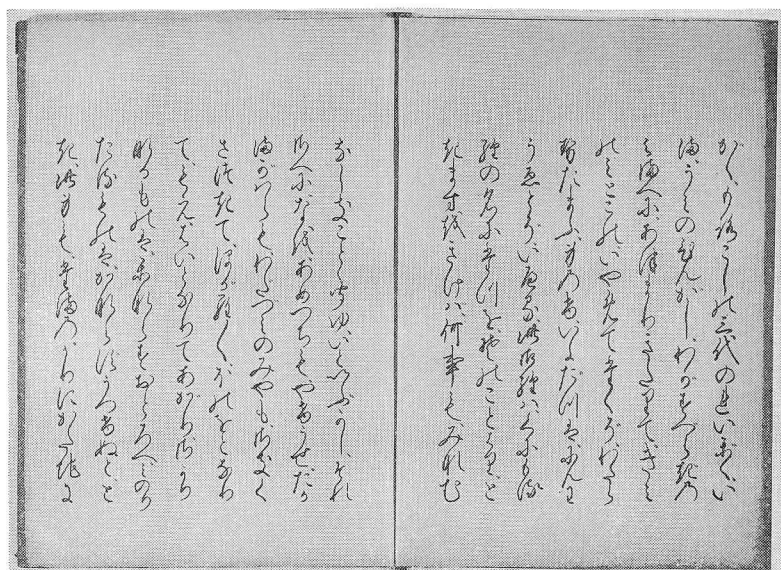
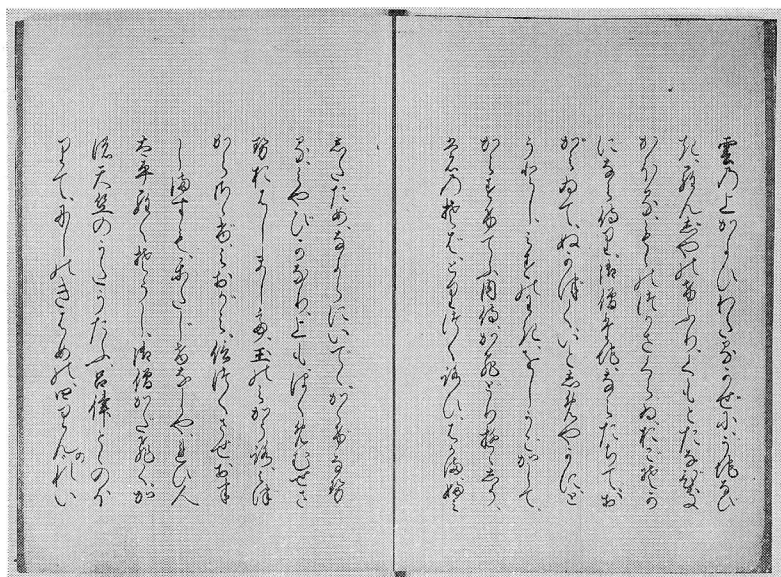
うれききききききききき  
 けあききききききききき  
 せんききききききききき  
 一、うれききききききききき  
 よしききききききききき

うれききききききききき  
 けあききききききききき  
 せんききききききききき

仁王舎

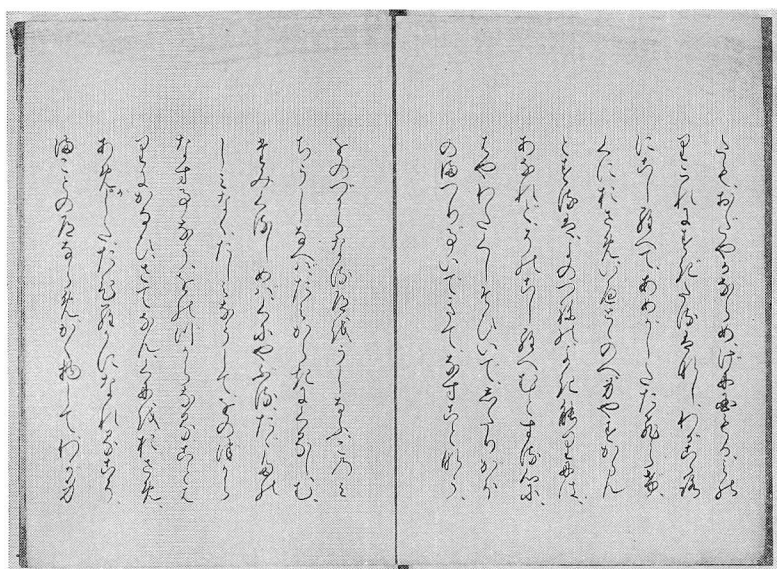
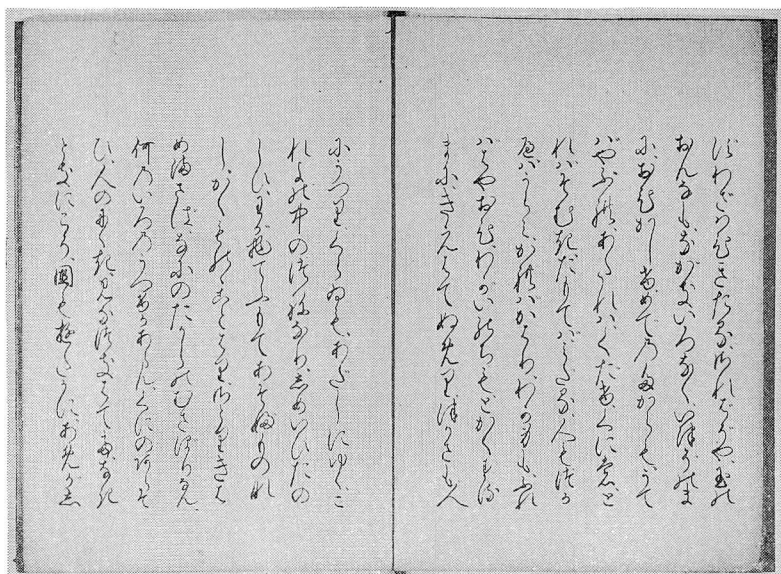
いづれのとれりあきききき  
 とうききききききききき  
 うれききききききききき  
 せんききききききききき  
 一、うれききききききききき  
 よしききききききききき

うれききききききききき  
 けあききききききききき  
 せんききききききききき  
 一、うれききききききききき  
 よしききききききききき



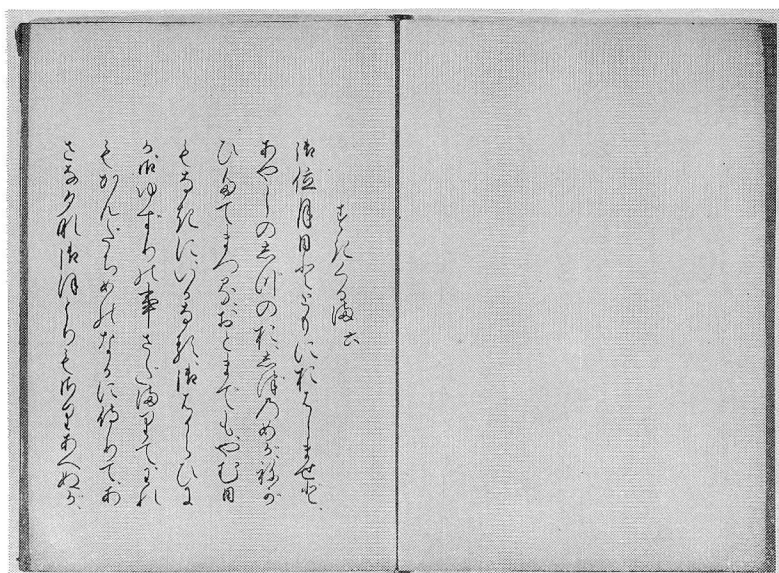
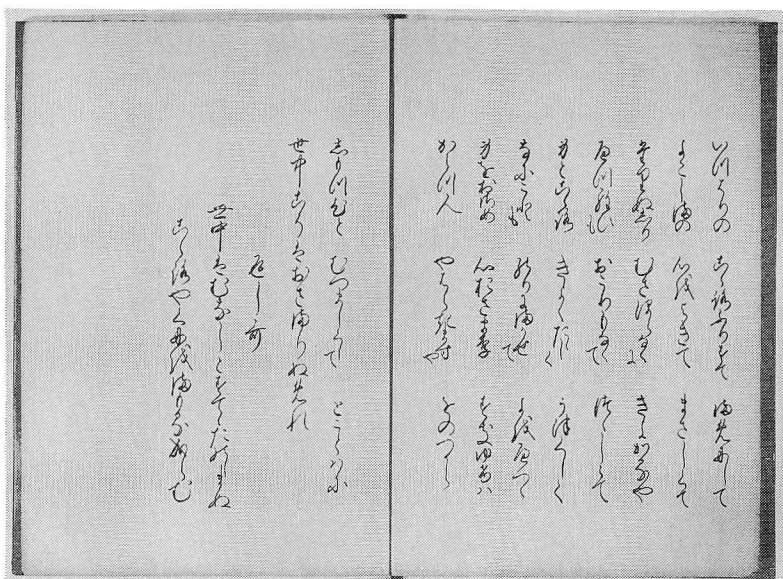
ぬきとて、ふらとたなへてくやうに  
 じ又くふは何のけしおらんかふは  
 何んたのこゝろとて、おりのけし  
 くらうやぬきとてくやうに  
 とくやうに、又おりのけし  
 とくやうに、おりのけし  
 とくやうに、おりのけし

おとろひを飛しりおれわすめのみ  
 こゝろへ、おさ失たたる跡へ、彼との  
 とくふにみえらゆはづれもくまの  
 らふ我々乃きにひとぼかりんた  
 るをけいぬよわたりわすめは満  
 りて、あきかたでんがもとこころに  
 なぐくううおもちなりく君さん  
 わせて、なのたりすまゐりのなる海に















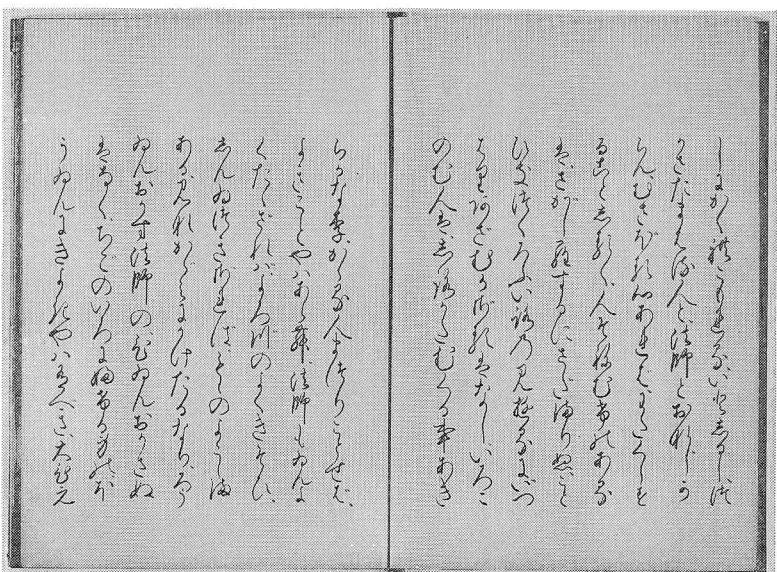
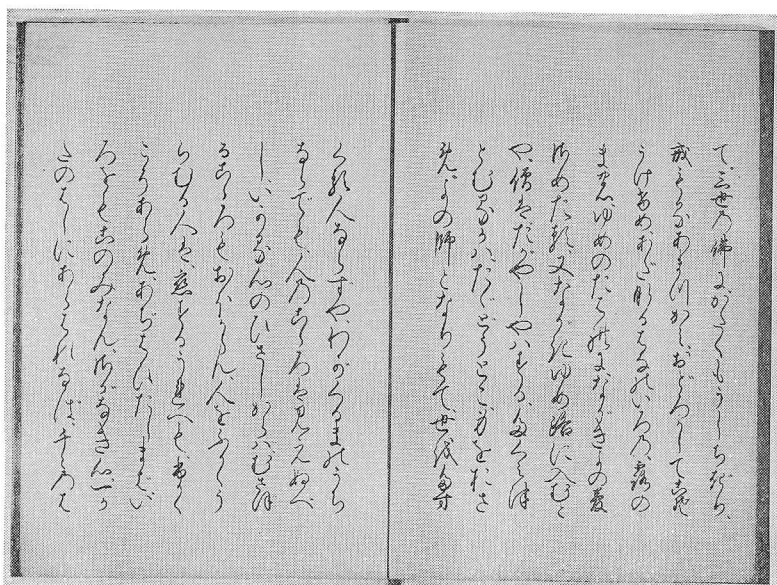
一とふ海ふちのあつたてふと  
のあひうらうらうてがあつた  
あにうらうらうてがあつた  
うらうてのつらあつた一海はあつた  
海ふちのあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた





のたゞの紙圖よりして、そのせわま  
りまゝせ、かくとんそむりあるせ  
いで、あられ中に、まゝの君、まゝ  
はる、まゝの、然る、まゝの、まゝの  
と、自ら、まゝの、まゝの、まゝの、  
う、まゝの、まゝの、まゝの、まゝの、  
く、まゝの、まゝの、まゝの、まゝの、  
まゝの、まゝの、まゝの、まゝの、まゝの、

い、まゝの、まゝの、まゝの、まゝの、  
か、まゝの、まゝの、まゝの、まゝの、  
り、まゝの、まゝの、まゝの、まゝの、  
や、まゝの、まゝの、まゝの、まゝの、  
ね、まゝの、まゝの、まゝの、まゝの、  
入、まゝの、まゝの、まゝの、まゝの、  
こ、まゝの、まゝの、まゝの、まゝの、  
まゝの、まゝの、まゝの、まゝの、まゝの、

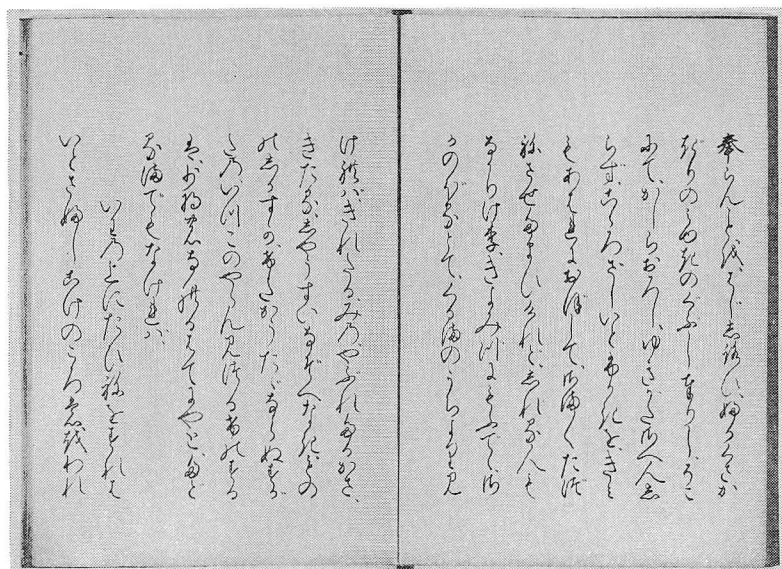
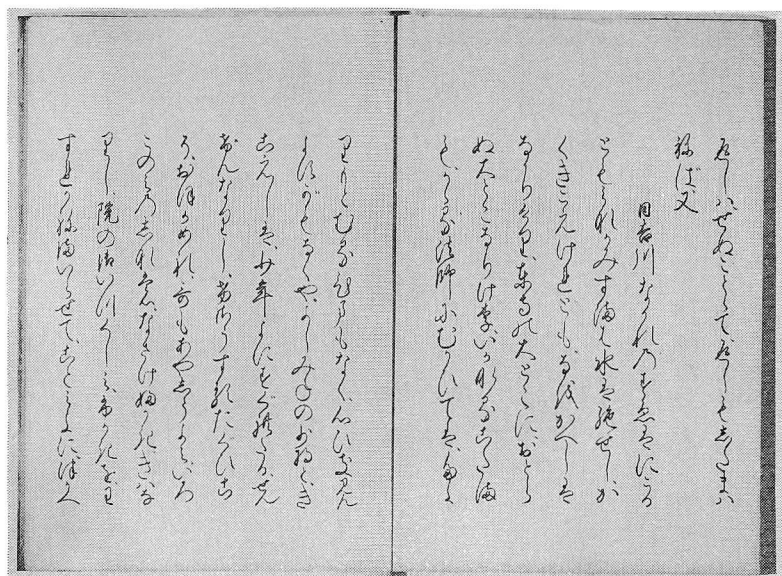
まゝの、まゝの、まゝの、まゝの、まゝの、  
まゝの、まゝの、まゝの、まゝの、まゝの、  
まゝの、まゝの、まゝの、まゝの、まゝの、  
まゝの、まゝの、まゝの、まゝの、まゝの、  
まゝの、まゝの、まゝの、まゝの、まゝの、  
まゝの、まゝの、まゝの、まゝの、まゝの、

まゝの、まゝの、まゝの、まゝの、まゝの、

まゝの、まゝの、まゝの、まゝの、まゝの、  
まゝの、まゝの、まゝの、まゝの、まゝの、

まゝの、まゝの、まゝの、まゝの、まゝの、  
まゝの、まゝの、まゝの、まゝの、まゝの、  
まゝの、まゝの、まゝの、まゝの、まゝの、

まゝの、まゝの、まゝの、まゝの、まゝの、  
まゝの、まゝの、まゝの、まゝの、まゝの、  
まゝの、まゝの、まゝの、まゝの、まゝの、











ふときき得るや、いふはふらんや  
らひけれも、あうとたふふらば  
かゝふにのいふんて、いふうあひれ  
ふ、いふれは、いふらん、いふれは  
ちりけるらんの人れめと、いふれ  
いふて、いふて、いふて、いふて  
たふふに、いふれは、いふらん、いふ  
らん、いふれは、いふらん、いふれ

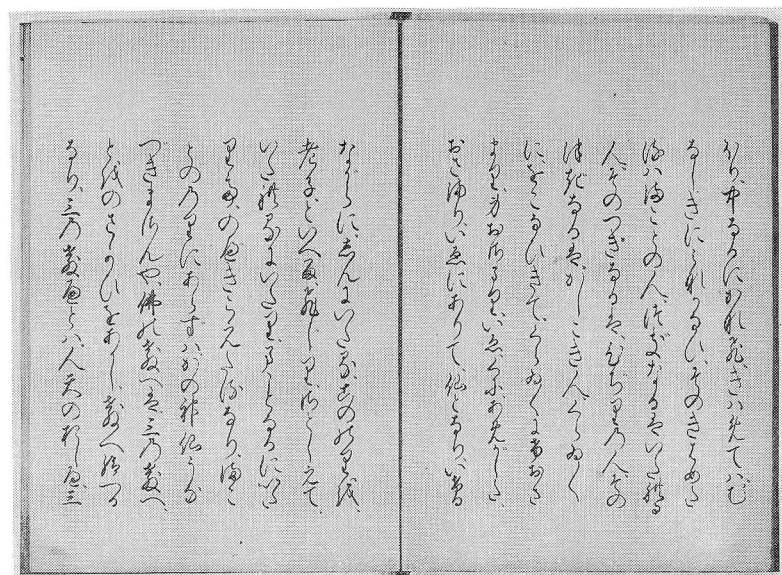
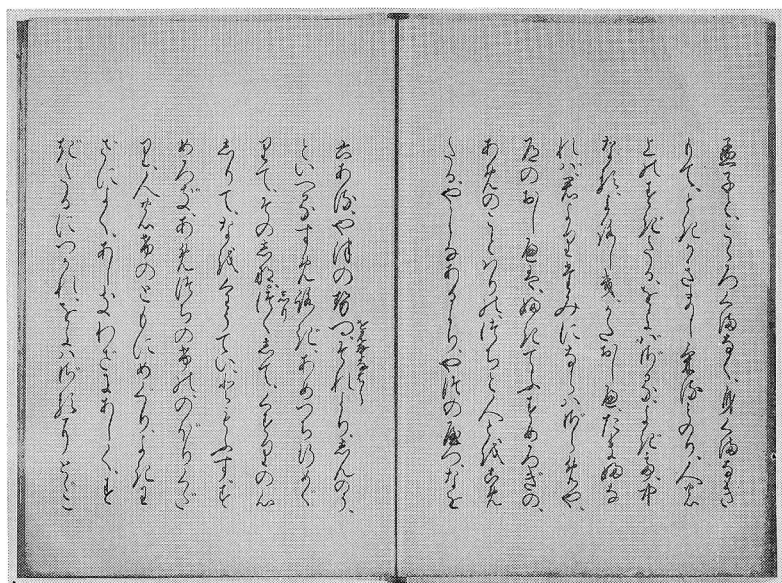
あう、いふれは、いふらん、いふれ  
ありける、いふれは、いふらん、いふれ  
いふらん、いふらん、いふらん、いふらん  
いふらん、いふらん、いふらん、いふらん  
いふらん、いふらん、いふらん、いふらん  
いふらん、いふらん、いふらん、いふらん  
いふらん、いふらん、いふらん、いふらん  
いふらん、いふらん、いふらん、いふらん

人たふれ、いふれ、いふれ、いふれ  
あう、いふれ、いふれ、いふれ、いふれ  
いふれ、いふれ、いふれ、いふれ、いふれ  
いふれ、いふれ、いふれ、いふれ、いふれ  
いふれ、いふれ、いふれ、いふれ、いふれ  
いふれ、いふれ、いふれ、いふれ、いふれ  
いふれ、いふれ、いふれ、いふれ、いふれ  
いふれ、いふれ、いふれ、いふれ、いふれ

人たふれ、いふれ、いふれ、いふれ  
あう、いふれ、いふれ、いふれ、いふれ  
いふれ、いふれ、いふれ、いふれ、いふれ  
いふれ、いふれ、いふれ、いふれ、いふれ  
いふれ、いふれ、いふれ、いふれ、いふれ  
いふれ、いふれ、いふれ、いふれ、いふれ  
いふれ、いふれ、いふれ、いふれ、いふれ  
いふれ、いふれ、いふれ、いふれ、いふれ





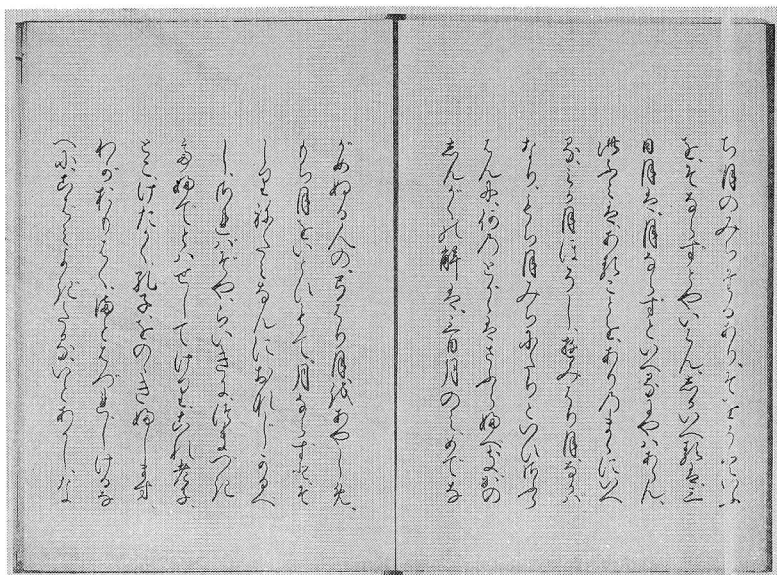
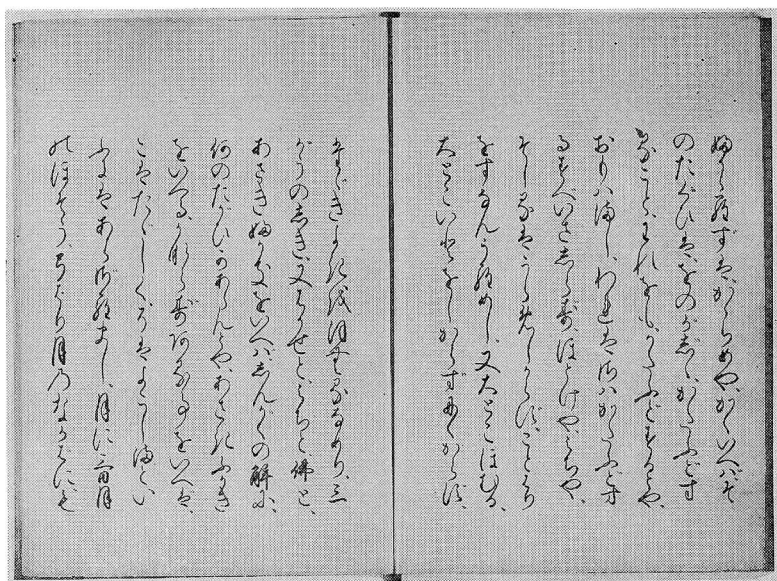




を予らがうそ言つた事を疑ふものなり、  
あゝのうらなひなりわれ難免悔と  
さまゝめよおとうあゝこを走しぬとな  
くて、おようれなるかり、あの娘とお  
わいにかゝるをたてりなり、底き  
ける人れを他人せぬとづよの  
かゝる人を問へりなり、おわいよ  
ろくせんわかれん、こにわかれ

わあちうづういもさくびうけや  
れぞ、そのさうせうあもさく  
ふもとはさくいで、あせう如  
来よのさくづりまをせんらの  
れせちみろせんせいもむすふ  
たにいづ、あまのみゆりもく  
よつたふいれ、あまのきい  
鬼をけとあまのきいさくも





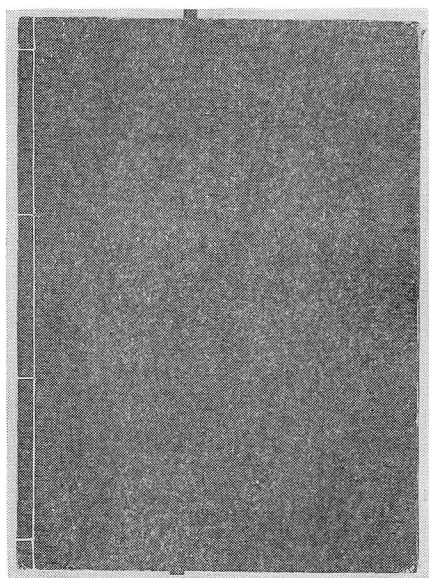
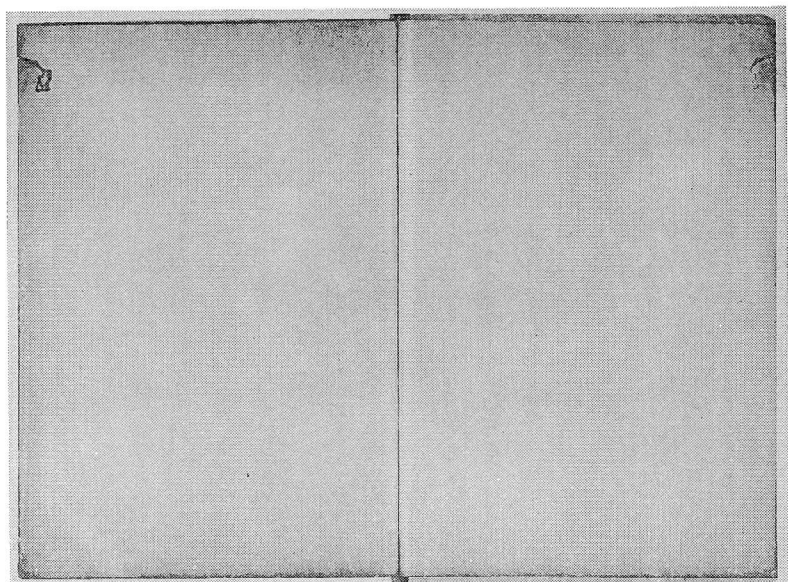
波のつちと魚苗ふたぐいゝてい  
つゝ苗子よたまぐいにもつらん  
魚子あだつゝさうたかたろふと  
一わらゝ二わらゝみのほろろとどが  
らるくにいふいひつれあつれあ  
むらゝに魚子れれをむねとて  
の葉もゝろふれむらゝあけよめく  
月くむらゝのあゝさうのあ

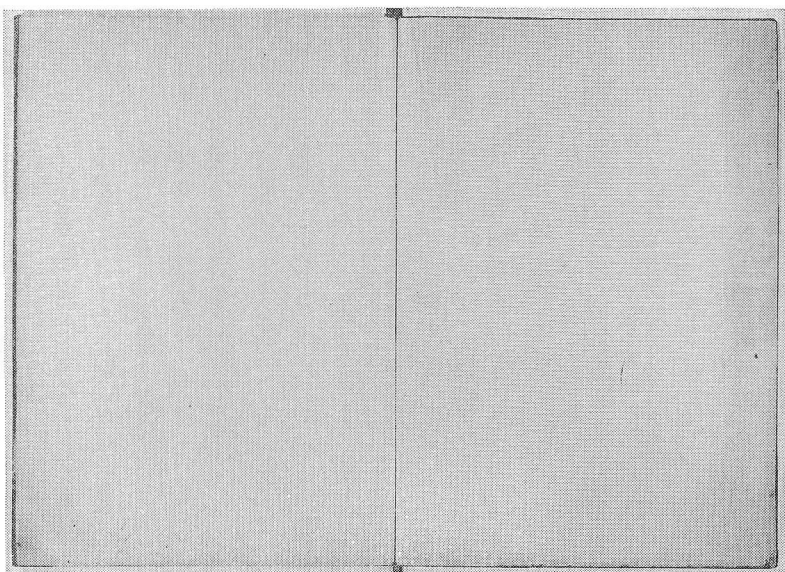
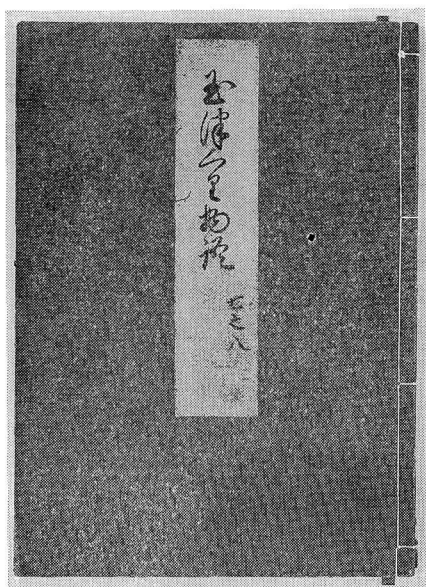
さうけゝむらゝあゝあゝしと  
すまんくの解きよあゝれた  
人びとがうわさうをさうあゝ  
うさのあゝさのほうにやあゝ  
らんゆゝめらんよゝさうに  
つゝねなゝさゝもむらゝさうれ  
さうせさうわねと人ゝさう  
さうとらんさゝもゆゝめらん

のあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ  
てふあゝあゝあゝあゝあゝあゝ  
あゝさゝ人ゝさゝあゝあゝあゝ  
ほろろあゝあゝあゝあゝあゝ  
ほろろあゝあゝあゝあゝあゝ  
あゝあゝあゝあゝあゝあゝ  
あゝあゝあゝあゝあゝあゝ  
あゝあゝあゝあゝあゝあゝ  
あゝあゝあゝあゝあゝあゝ  
あゝあゝあゝあゝあゝあゝ

さゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ  
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ  
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ  
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ  
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ  
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ  
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ  
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ  
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ  
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ







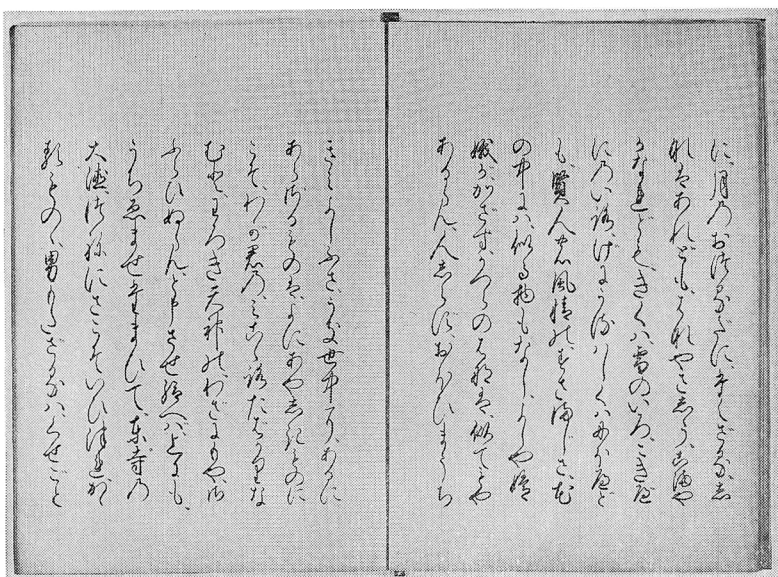
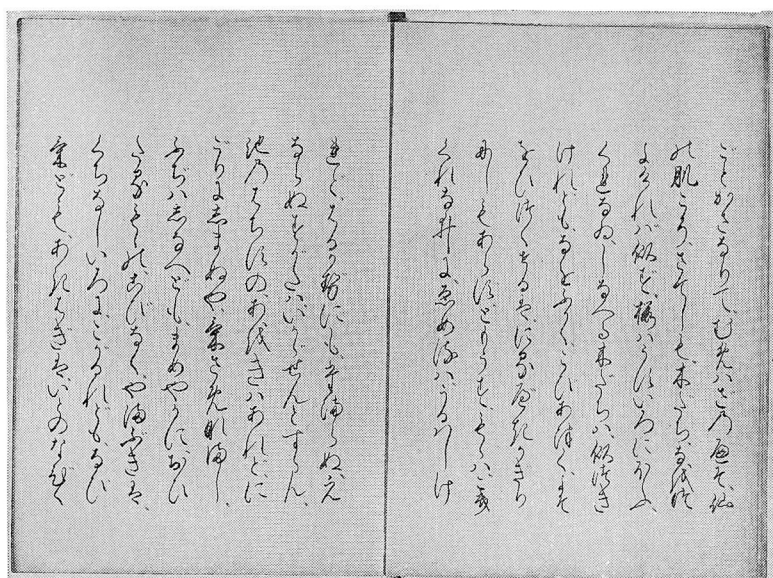


むすなれとれ七

くもりとれふの目いづのうに  
これとふ最なるあけいとめは  
里とさそふは名ゆとれとれ  
の所ふいてたふはけりとれ  
れあふふり海雲のいさか  
こゝあけの海とれとれとれ  
とれとれとれとれとれとれ

て所あふやこゝへはさるる  
るれけいりつれたれたれ  
れとれ人々とれとれとれ  
とれとれとれとれとれ  
いづとれとれとれとれ  
とれとれとれとれとれ  
とれとれとれとれとれ  
とれとれとれとれとれ  
とれとれとれとれとれ  
とれとれとれとれとれ

とれとれとれとれとれ  
とれとれとれとれとれ  
とれとれとれとれとれ  
とれとれとれとれとれ  
とれとれとれとれとれ  
とれとれとれとれとれ  
とれとれとれとれとれ  
とれとれとれとれとれ  
とれとれとれとれとれ  
とれとれとれとれとれ



もろあふに中になすくちまを  
とくくのりせませありしれは  
なとらぬいとくちまをゆり  
てんてん箱はゆりぬすいれせ  
のれとれよもおのくはいり  
ゆけくちまありいすちまぬ  
のめりなすぬくちまぬ  
とくちまぬくちまぬ

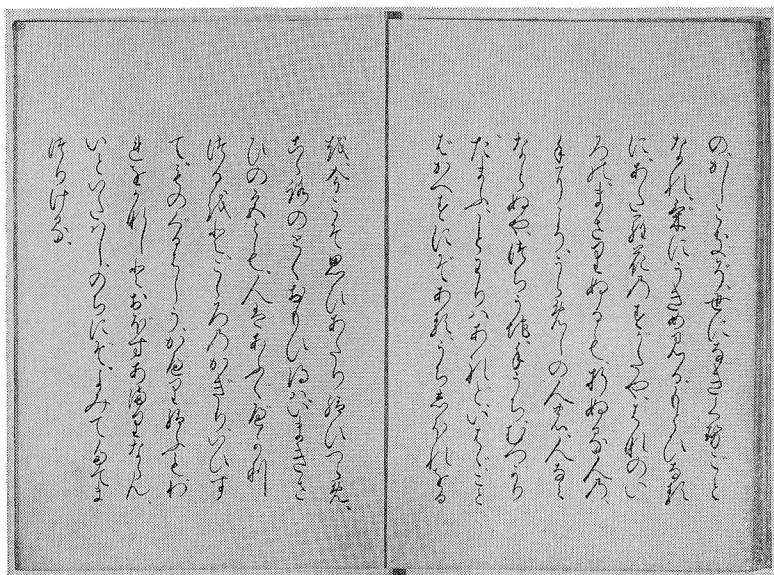
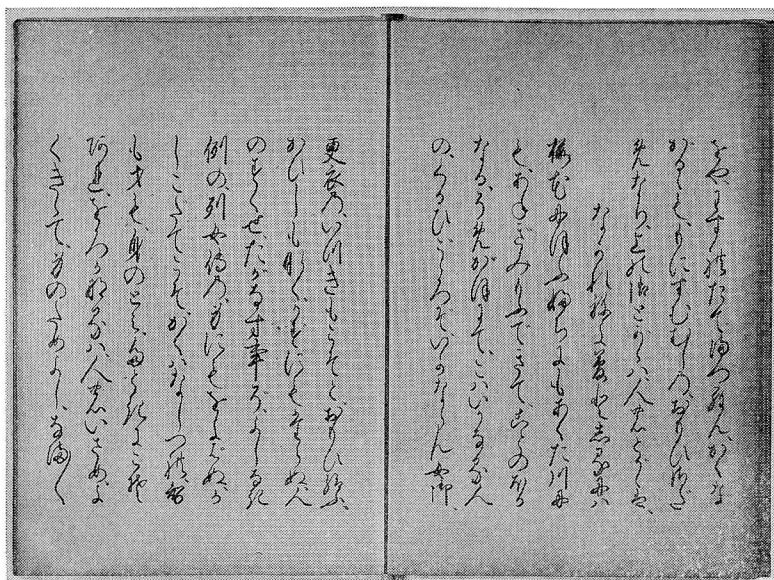
れに

まもあて家た君れあ  
まもあてまもあて家た君れあ  
まもあてまもあて家た君れあ  
まもあてまもあて家た君れあ  
まもあてまもあて家た君れあ  
まもあてまもあて家た君れあ  
まもあてまもあて家た君れあ  
まもあてまもあて家た君れあ  
まもあてまもあて家た君れあ  
まもあてまもあて家た君れあ

まもあてまもあて家た君れあ  
まもあてまもあて家た君れあ  
まもあてまもあて家た君れあ  
まもあてまもあて家た君れあ  
まもあてまもあて家た君れあ  
まもあてまもあて家た君れあ  
まもあてまもあて家た君れあ  
まもあてまもあて家た君れあ  
まもあてまもあて家た君れあ  
まもあてまもあて家た君れあ

いせくちまぬくちまぬ

まもあてまもあて家た君れあ  
まもあてまもあて家た君れあ  
まもあてまもあて家た君れあ  
まもあてまもあて家た君れあ  
まもあてまもあて家た君れあ  
まもあてまもあて家た君れあ  
まもあてまもあて家た君れあ  
まもあてまもあて家た君れあ  
まもあてまもあて家た君れあ  
まもあてまもあて家た君れあ





ちりぬくまをとおぼしめ  
らんれあろのふれやいれ  
なんあひなり

おのいふけいなりやうもの  
うふれーたさういふ月もあはれ

いりあへ

らんうわたりこのんれーふ  
とあふれんあふれうあふ  
いらくきれらせあふなり  
らひらくきれらせあふなり  
れらううてあひいふけい  
るれらううてあひいふけい  
八雲の八雲の上はといわたり

らんうわたりこのんれーふ  
とあふれんあふれうあふ  
いらくきれらせあふなり  
らひらくきれらせあふなり  
れらううてあひいふけい  
るれらううてあひいふけい  
八雲の八雲の上はといわたり

れらううてあひいふけい  
るれらううてあひいふけい  
八雲の八雲の上はといわたり  
らんうわたりこのんれーふ  
とあふれんあふれうあふ  
いらくきれらせあふなり  
らひらくきれらせあふなり  
れらううてあひいふけい  
るれらううてあひいふけい  
八雲の八雲の上はといわたり



とてさむとみものしむとあれ  
むだうらひのちれやうらひもた  
えとてゆらさの人も人うらひのち  
死なぬ人も人うらひのちぬ人も  
なれぬ人も人うらひのちぬ人も  
なれぬ人も人うらひのちぬ人も  
なれぬ人も人うらひのちぬ人も  
なれぬ人も人うらひのちぬ人も  
なれぬ人も人うらひのちぬ人も

ぬいぢもあふちぬたぢもあ  
ぬいぢもあふちぬたぢもあ  
ぬいぢもあふちぬたぢもあ  
ぬいぢもあふちぬたぢもあ  
ぬいぢもあふちぬたぢもあ  
ぬいぢもあふちぬたぢもあ  
ぬいぢもあふちぬたぢもあ  
ぬいぢもあふちぬたぢもあ  
ぬいぢもあふちぬたぢもあ  
ぬいぢもあふちぬたぢもあ

かゝてきねいふうにゆらう  
すゝた月れちたかちやそれと  
りのふとくうと月れちたかちや  
るをちとくういのけふ月れちた  
かちいのふとくういのけふ月れ  
ちとくういのけふ月れちたかち  
ちとくういのけふ月れちたかち  
ちとくういのけふ月れちたかち  
ちとくういのけふ月れちたかち  
ちとくういのけふ月れちたかち  
ちとくういのけふ月れちたかち  
ちとくういのけふ月れちたかち

かゝてきねいふうにゆらう  
すゝた月れちたかちやそれと  
りのふとくうと月れちたかちや  
るをちとくういのけふ月れちた  
かちいのふとくういのけふ月れ  
ちとくういのけふ月れちたかち  
ちとくういのけふ月れちたかち  
ちとくういのけふ月れちたかち  
ちとくういのけふ月れちたかち  
ちとくういのけふ月れちたかち  
ちとくういのけふ月れちたかち  
ちとくういのけふ月れちたかち  
ちとくういのけふ月れちたかち

井いゝちやう物さるんそ  
いりせのちやう物さるんそ  
川のさうりれわいてさうりれ  
ちやう物のさうりれわいてさ  
くもさうりれわいてさうりれ  
さうりれわいてさうりれ  
さうりれわいてさうりれ  
さうりれわいてさうりれ  
さうりれわいてさうりれ

飛んてさうりれわいてさ  
いりせのちやう物さるんそ  
つねのちやう物さるんそ  
ちやう物のさうりれわいてさ  
さうりれわいてさうりれ  
さうりれわいてさうりれ  
さうりれわいてさうりれ  
さうりれわいてさうりれ  
さうりれわいてさうりれ

さうりれわいてさうりれ  
さうりれわいてさうりれ  
さうりれわいてさうりれ  
さうりれわいてさうりれ  
さうりれわいてさうりれ  
さうりれわいてさうりれ  
さうりれわいてさうりれ  
さうりれわいてさうりれ

さうりれわいてさうりれ  
さうりれわいてさうりれ  
さうりれわいてさうりれ  
さうりれわいてさうりれ  
さうりれわいてさうりれ  
さうりれわいてさうりれ  
さうりれわいてさうりれ  
さうりれわいてさうりれ

さうりれわいてさうりれ  
さうりれわいてさうりれ  
さうりれわいてさうりれ  
さうりれわいてさうりれ  
さうりれわいてさうりれ  
さうりれわいてさうりれ  
さうりれわいてさうりれ  
さうりれわいてさうりれ



いふやわさんのかつていふ  
里なるといふ海人よけりも海や  
まいも又のえわつたれもいふ  
れや、因もそんくわいひなりけり  
それよりや、さうといふさういふ  
いふもいふけり、わあ、あうた  
むかりけり、事やうて、いふ  
く、わん、いふ、いふ、いふ、いふ

をば、さういふ、いふ、いふ、いふ  
おのゝ、いふ、いふ、いふ、いふ  
いふ、いふ、いふ、いふ、いふ  
ら、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ  
いふ、いふ、いふ、いふ、いふ  
いふ、いふ、いふ、いふ、いふ  
いふ、いふ、いふ、いふ、いふ  
いふ、いふ、いふ、いふ、いふ

つたれ、いふ、いふ、いふ、いふ  
いふ、いふ、いふ、いふ、いふ  
いふ、いふ、いふ、いふ、いふ  
いふ、いふ、いふ、いふ、いふ  
いふ、いふ、いふ、いふ、いふ  
いふ、いふ、いふ、いふ、いふ  
いふ、いふ、いふ、いふ、いふ  
いふ、いふ、いふ、いふ、いふ

いふ、いふ、いふ、いふ、いふ  
いふ、いふ、いふ、いふ、いふ  
いふ、いふ、いふ、いふ、いふ  
いふ、いふ、いふ、いふ、いふ  
いふ、いふ、いふ、いふ、いふ  
いふ、いふ、いふ、いふ、いふ  
いふ、いふ、いふ、いふ、いふ  
いふ、いふ、いふ、いふ、いふ



のたきふ月すむ下れり  
あぐそくいるうてなごるらん  
わのむつふの……ふ……も足れき  
よかり……まみこのおれずなが  
おの……わ……ちりい……うら……き……  
か……なる……ふ……あつ……れ……ち  
かなん……まみをゆかうびきて見  
わざき……れ……ふん……うら……

のことも知らず、あつてはけふは終人全  
にさびざりこそ、いとおそれある所、  
と云ねた又あり、わづらひれどもと  
女の内ふもまうぶりの海といの  
ちいしとあらじ、厭とよそ、これ程  
より、こゝである、さぞおれお、  
とよとなく、あやしくなる人、おな  
やさん人のまへ人のまへ、人め

あゝねえ、なまきこいかなあつてのね  
ふさねもやあんなあつてもうかへん  
かいとちをくそく人なれどそれ  
とぬ、おひづろにじろにせよとも  
ゆけりてすにいり女の中を、おいと  
かりらんを成しとまへわらわ  
のぶろくのやまをばいへせんわ  
らへん、にあやうしのぞあ

きよのたりしつねわうねとて  
れはゆけくをあらでふふとあ  
とむるかに入ぬ月やあるやむ  
にさすまふをそなふけはたに  
くさくさとしてそけうのま  
るわれをぬき事となすつれ  
くるしうらんうさひあわれ  
かなうき事のみねなり衆を

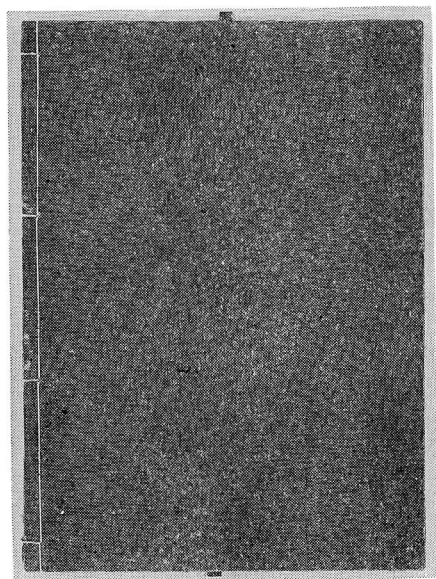
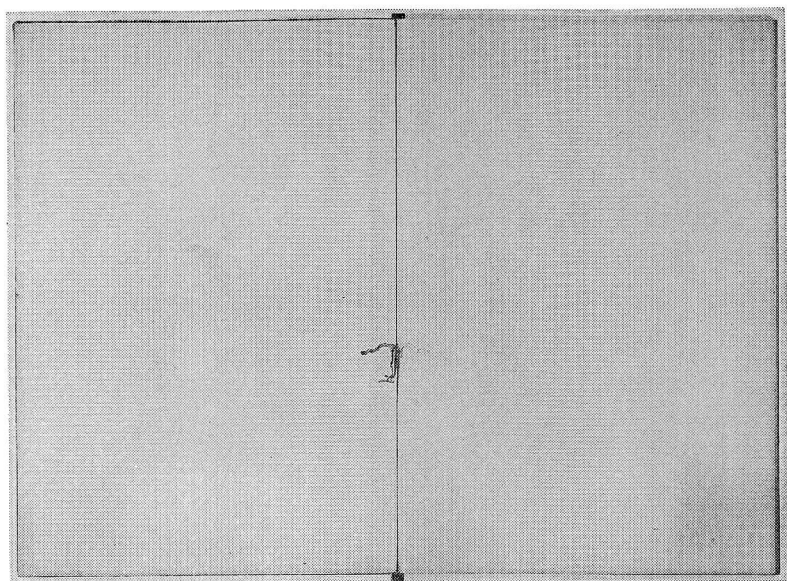


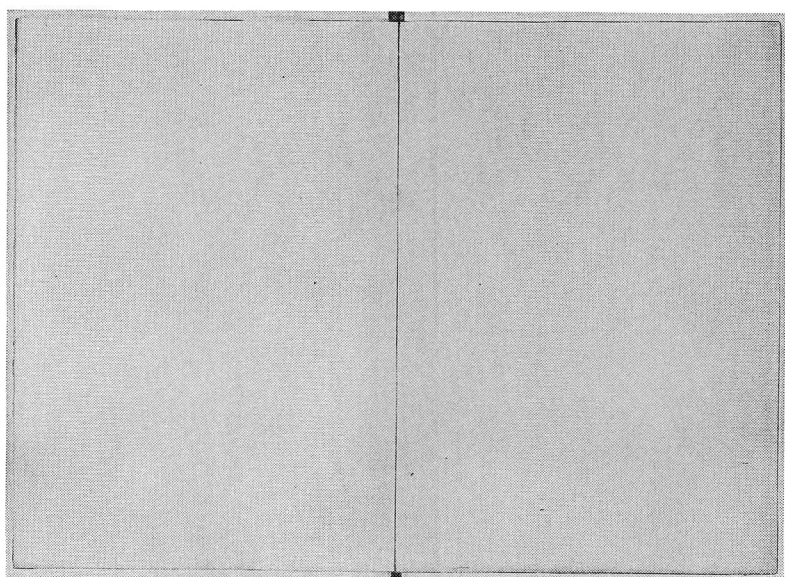
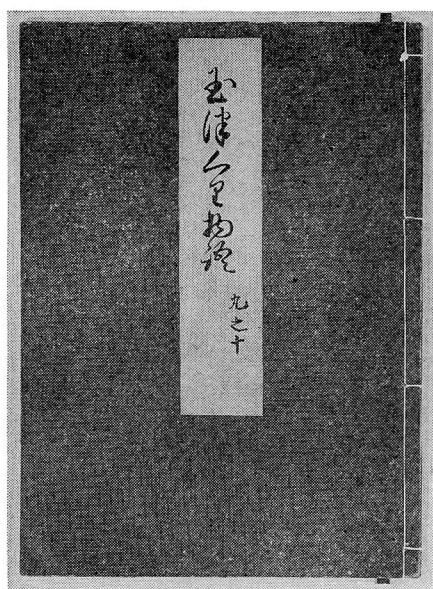
う成あわさるる世のちをよみ  
むつこにわなふれいこにうの  
きよねちちあかあめいばるる  
にねんちやふれあつちちひの  
くちんちかふ酒ちちのうわ  
あさうめのおりふれちちね  
まふあいまはれちちあめちち  
しちかふちあめちちんちち

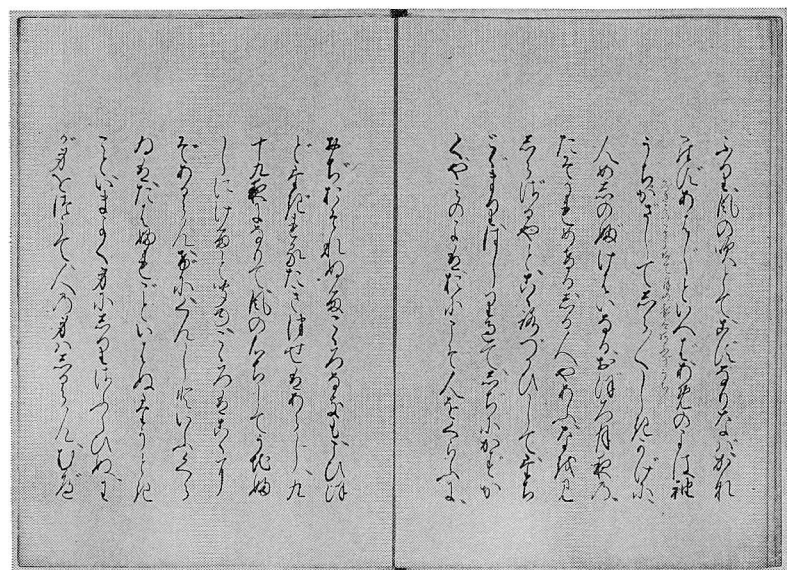
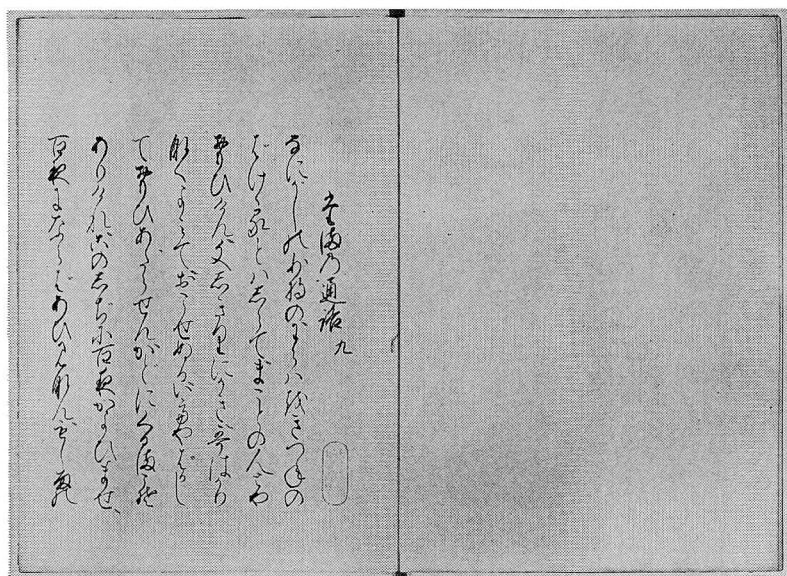
あふせちちちちちちちちち  
すかちちちちちちちちち  
のせちちちちちちちちち  
うき世のねねちちちちち  
ちちちちちちちちちちち  
ちちちちちちちちちちち  
ちちちちちちちちちちち  
ちちちちちちちちちちち  
えねちちちちちちちちち

いひまのふり、いぢりじち、ひちち  
ひて、このちのちちちちちちち  
ちちちちちちちちちちちちち  
きして、いふちちちちちちち  
大徳のちちちちちちちちち  
せりてちちちちちちちちち













もあつたをばこれに——やうな  
 ぶひりれも例の文よりせぬを  
 して——月を——ふまはるる  
 こと——居てかゝれをわづら  
 のひりてひか——うも入るるに  
 けあつてふもしてうら——にめ  
 しむるもありをのつて——ひて  
 ぬいばてを委かく——とふに

[illegible]

世の人々より好むは  
わがこころにありては  
ねがひしつゝは  
ては  
あつたふたつたのふたつた

うはあふれ

わがをふれふれふれふれ  
ゆふふふふふふふふふ  
あつたふれふれふれふれ  
はひふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふ

一、わがまゝをなすにせむとてわがまゝ  
 うまへわれど、かんとおのころて人の言  
 へば、あつゝのめてやと、神も天の  
 おもひにそなへ、さうにかさねてい  
 けりや、わがまゝとすゝめ、心をあは  
 せ、なうん、かりたり、け、かまひ、そ、い  
 いう、こころよ、せ、れ、も、た、か、ま、よ、と、い  
 へ、と、い、け、の、い、あ、け、の、ゆ、く、と、ま、な

人をくろ目鬼こゆひさてわ  
 いさふもいさやうくもあふ  
 小くにかいさあてさうわのま  
 くにいさめさふれもはさふ  
 うさふいさふれあふさふ  
 てわめさふ

いふと多ううつふわ世  
中の人々を救ふれぬやめり

けぬしうらちをうけてくもむとぞろ  
小虫病もやまひつゝちとすくごり  
るさんいとふさふさ病かはのこ  
くゝまうちをふれくまうのちり  
やひまひ

宛のいちぢう付てよりうぬ  
いづに致者よりいぢうなるあせ  
ふかてせ中うのむねいふと

うりななゆに文屋のやゝひてさうの  
 寺のあたへて置わたりとてたて  
 りやかりいそをわづらふにゆりや  
 いひぬさへにうつへ

花のうゑは男はうゑるゝとて  
 だててはなれぬはいふとよ  
 やむはひらひらてふわいふ花  
 のうゑはうゑるゝとてわんゝす



